教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 生活環境学科　　資格： 教授　　氏名： 三宅　正弘

研究分野	研究内容のキーワード
都市計画　まちづくり　食空間	地域資源　阪神間モダニズム　美食空間　多文化共創
学位	最終学歴
博士（工学・大阪大学）,修士（工学・京都大学）,学士（工学・関西大学）	大阪大学大学院 工学研究科 環境工学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.共通教育・学び発見ゼミ「世界の食事と多文化共生」申し込み率2019年430％・2022年365％	2019年～現在（前期＋後期）	20か国の挨拶やお礼の言葉を交えながら、一人一人が他者や多文化に興味を持ちながらコミュニケーションを行っていくアクティブラーニング型のゼミであり、ステレオタイプな文化ではない一人一人が自分の言葉で伝えることのできるプレゼンテーションのトレーニングを笑顔でユーモアと楽しさをもって行う。食事とは、決して料理や食べ物のことでなく、食べ方も含めたソフトであり、個人や多文化によって個性をもつ。料理や食べ物といったハードな視点では見えてこない多文化を考えることで、これからの「多文化共創」を議論することが可能となると考えている。
2.フランス国立建築大学リール校（大学院）との交流事業	2014年	フランス国立建築大学リール校における日本研修において、大学院生19名とフランク・サラマ先生が本学に来学し、生活環境学科の9名の学生が日本の大学キャンパスの特徴の一つとして本学キャンパスをプレゼンテーションし、また甲子園会館をはじめ旧山邑邸（ヨドコウ迎賓館）、コシノヒロコ氏のギャラリーなどでを解説するバスツアーを行い、日本案内を行った。学生らは学部事務局の協力により英語・フランス語のガイドブックを作成するなど、企画力・交渉力のトレーニングになったと思われる。（学生メンバーは主に2012年の海外研修のメンバーであり、そのときにフランスのリール市を訪問しており、その研修との連続性ももたせている）
3.フィールド・サーヴェイ実習	2007年～現在	＜まち歩き＞　まず街に興味をもっていただくためには、「街っておもしろい」、「街が好き」と学生さんに感じていただければと考えている。どんな街にも魅力があることを伝えるためには、できるだけ普段、日常的に知っている街を歩き、そこで面白さを発見していただけるように、様々な特徴的な街も比較対象として歩く。受講者は受講後、どんな街でもどこの街でも楽しめるようになっていると思う。
4.鳴尾苺の復活プロジェクト	2006年～2012年	2006年から学生とともに地域資源である鳴尾苺を通して、鳴尾の方々との連携を行いながら生活環境学科の学生チーム（1年生から4年生の連携）で苺づくりの調査を行い、2008年に学内で苺畑（現：生活環境館２号館増築部分）を開始した。この取り組みは地域連携とともに、西宮市立鳴尾小学校3年生と2013年まで共同で学習を行った。畑では養蜂も行うなど、総合的な学習とともに都市内農業の可能性の検討した。
5.ゼミの活動を一年にわたり新聞連載「毎日新聞」（連載名：「こよみと暮らし　三宅ゼミの歳時記」）連載期間：2008年4月から2009年3月　第１回から第22回の22回についてカラーページで連載		ゼミ生たちと共に2006年から始めた鳴尾苺の復活プロジェクトや、逆さ門松など企画から地元の祭りへ参加している活動など、ゼミで行ったまちづくりのための研究調査と活動を一年を通して紹介した。例えば有名料亭の元総料理長から学んでいる節句料理の勉強会や、神戸港を出航する外国客船へ向けてお別れの紙テープを投げる活動、ゼミ生が研究している年中行事の研究成果なども紹介し、ゼミの一つ一つの活動の社会的な位置づけを学生に伝えると同時に、ひとつの教

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		育実践を社会に提示した。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.ニューヨーク大学大学院（修士・博士課程）における講義（New York University, Graduate Food Studies）Gastronomical space according to the Japanese and French perspectives: social issues revealed through gastronomic space.	2014年12月９日	It is obvious that if we consider time and space, there are many common aspects in gastronomy between Japan and the United States. For example, what time people start eating meals and how long they spend eating are similar in these two countries. Moreover, the presentation of dishes and the layout of tables -the design or arrangement of the space- can be similar. From a French perspective, one could say that these similarities are quite clear. Additionally, political and/or social interactions between Japan and the US may be responsible for some of these similarities.
2.フランス国立建築大学パリ・ラヴィレット校（国際ポストマスターコース）における講義(Ecole nationale superieure d'architecture de Paris-La Villette, Post-master Recherches en Architecture） Etudes de l'espace gastromique	2013年12月６日	De la nourriture a la ville et viceversa… La ou on dispose de la cuisine se cree un espace. L'espace constitue par le recipient, l'espace represente par la table sur lequel repose ce recipient, mais egalement l'espace architectural que cette table va former avec la cuisine, architecture qui elle-même va s'etendre au paysage urbain.La cuisine francaise et la cuisine japonaise laissent entrevoir leurs particularites lorsque la gastronomie est abordee du point de vue de l'espace et du paysage.
3.フランス人文科学研究所・受入教授 Maison des sciences de l'homme（武庫川女子大学・在外研究）	2013年4月1日～2014年3月31日	
4.スコットランド・ロバードゴードン大学における講義（The Robert Gordon University, Aberdeen）	2004年10月30日	The granite city in Japan
4 その他		
1.京都府八幡市役所「大阪・関西万博開催記念　八幡市クルーズ」	2025年4月13日	「八幡市クルーズ～やわたの物語を巡る～」（企画・協力および講師としてクルーズ船から解説）
2.神戸商工会議所女性会講演会	2025年2月18日	講演演題「世界に誇る神戸の洋食史・洋菓子史を生んだ都市構造」
3.芦屋市立美術博物館「展覧会・芦屋の文化財再発見―最新のヨドコウ迎賓館温室跡発見まで―」街歩きイベント	2025年1月26日	講演演目「芦屋博士と歩く　芦屋浜モダニズム」（まちあるきで解説）
4.芦屋市立美術博物館「展覧会・芦屋の文化財再発見―最新のヨドコウ迎賓館温室跡発見まで―」街歩きイベント	2025年1月12日	講演題目「芦屋博士と歩く　石から見る芦屋の歴史」（まちあるきで解説）
5.第20期　灘大学（灘百選の会）	2024年12月21日	講演題目「灘の名物・石垣を石垣博士が語る」
6.芦屋市役所・芦屋市教育委員会「ヨドコウ迎賓館竣	2024年12月8日	オープニングトークおよび座談会に出演（出演者は、

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
工100周年記念コンサート&座談会・講演会」		作曲家の妹尾武氏、芦屋市長の髙島崚輔氏、淀川製鋼所の藤川加奈代氏、三宅の４名）
7.芦屋市立精道小学校　ゲストティーチャー	2024年11月21日	５年図画工作科「松を使って芦屋のまちづくり」
8.兵庫県庁・阪神南県民センター「阪神南地域まるごと魅力体験イベント」	2024年11月16日	名建築とアートを楽しむタウンコース（講師として観光バスで解説）
9.芦屋市立精道小学校　ゲストティーチャー	2024年11月14日	５年図画工作科「石を使って芦屋のまちづくり」
10.神戸新聞情報文化懇話会（神戸メリケンパークオリエンタルホテル）	2024年10月28日	講演題目「神戸の洋食史・洋菓子史 世界に発信を～多文化共生の時代から多文化共創の時代へ」
11.兵庫県庁・阪神南県民センター「阪神南地域まるごと魅力体験イベント」	2024年10月26日	阪神間ベイクルーズコース（講師として観光船にて解説）
12.大阪市・浪速区役所「区制100周年記念事業 浪速区の魅力再発見」	2024年10月5日	道頓堀川・木津川クルーズ（企画・協力および講師としてクルーズ船から解説）
13.まちがく（Machigaku）西宮で一緒に学ぶことが「まちづくり」に繋がる・関わるみんなで創る学校・NPO法人なごみ	2024年8月7日	食の授業「洋菓子店から西宮を自由研究しよう」の講師
14.国際セミナー「AN AFTERNOON OF JAPAN OPTIMISM, KOBE CULTURE AND NOBEL DISCUSSIONS」神戸外国人倶楽部	2024年6月21日	ジョン・アルカイヤ氏（ディメンショナル・ジャパンCEO）、ノーベル経済学賞受賞のロバート・C・マートン教授、経済学者のイェスパー・コール氏、一橋大学の本多俊毅教授、三宅正弘の５名が出演。
15.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2024年6月11日	講演題目「多文化共生のまちづくり」
16.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2024年5月23日	講演演題「阪神間モダニズムの今」
17.第33回シンポジウム『野球聖地「甲子園」の景観と興趣』（生活美学研究所主催）	2024年1月20日	講演演題「西宮七園の興隆　阪神間モダニズムに甲子園ホテルが果たした役割」
18.西宮まちなみ発見倶楽部主催「三宅先生とあるく石の街並み」	2024年1月13日	まち歩きの講師として（芦屋川右岸地区：山芦屋町・西山町）
19.芦屋市立山手小学校　ゲストティーチャー	2023年12月14日	４年図画工作科「石を使って芦屋のまちづくり」
20.芦屋市立山手小学校　ゲストティーチャー	2023年12月7日	４年図画工作科「石を使って芦屋のまちづくり」
21.阪神間連携ブランド推進協議会（阪神南県民センター・芦屋市役所・西宮市役所・阪神電気鉄道株式会社）「暮らしのなかの阪神間モダニズム」	2023年11月19日	インスタグラマー・ウラリエと行くレトロ＆モダニズムウォークでの講師（夙川コース）
22.阪神間連携ブランド推進協議会（阪神南県民センター・芦屋市役所・西宮市役所・阪神電気鉄道株式会社）「暮らしのなかの阪神間モダニズム」阪神間モダニズムセミナー	2023年11月18日	講演演目「モダニズム建築と阪神間グルメ・スイーツ」 講演および門上武史氏との対談
23.芦屋市教育委員会・阪神南地区社会教育委員協議会研修会	2023年11月15日	研修・講演演題「阪神間モダニズムの魅力」
24.阪神間連携ブランド推進協議会（阪神南県民センター・芦屋市役所・西宮市役所・阪神電気鉄道株式会社）「暮らしのなかの阪神間モダニズム」	2023年11月5日	インスタグラマー・ウラリエと行くレトロ＆モダニズムウォークでの講師（芦屋川コース）
25.豊中市役所・都市活力部・スポーツ振興課「豊中クルーズ～船から見た豊中の魅力発見の旅」	2023年11月4日	クルーズ航路として新規開拓の企画を行い、水先案内人として解説を行う。
26.神戸ファッション協会主催・共催神戸市および神戸商工会議所「神戸の食文化発信事業・神戸の『これからの洋食』」（デザイン・クリエイティブセンター神戸・KIITO/キイト）	2023年10月28日	フォーラムの講師として門上武司氏（フードコラムニスト）らと対談
27.(公財)兵庫県スポーツ協会・兵庫県立海洋体育館「芦屋浜・西宮浜クルージングツアー」	2023年10月21日	水先案内人として船上で芦屋浜・西宮浜の歴史文化・阪神間モダニズムなどを解説
28.(公財)兵庫県スポーツ協会・兵庫県立海洋体育館「芦屋浜・西宮浜クルージングツアー」	2023年10月14日	水先案内人として船上で芦屋浜・西宮浜の歴史文化・阪神間モダニズムなどを解説
29.大阪市・中央区役所「船場・ミナミと水辺を体験するまちあるき＆クルーズ」	2023年9月30日	クルーズ船にて道頓堀川の芝居やグルメの歴史を解説
30.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明会」（西宮北口会場）	2023年7月30日	講演者として講演演題「文教住宅都市・西宮と西宮の魅力」および市民と西宮市長・石井登志郎との座談会コーディネーターを務めた
31.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明会」（塩瀬会場）	2023年7月29日	講演者として講演演題「文教住宅都市・西宮と西宮の魅力（西宮北部：生瀬・塩瀬・山口）」および市民と西宮市長・石井登志郎との座談会コーディネーターを務めた
32.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明	2023年7月22日	講演者として講演演題「文教住宅都市・西宮と西宮の

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
会」（鳴尾会場）		魅力（鳴尾）」および市民と西宮市長・石井登志郎との座談会コーディネーターを務めた
33.トアロード・カレッジ（トアロード地区まちづくり協議会）　神戸外国倶楽部	2023年7月1日	講演演題「トアホテルのシェフと謎の石垣の物語～外国人との共創のまちづくりを考える～」
34.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2023年5月25日	講演演題「多文化共生のまちづくり」
35.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2023年5月16日	講演演題「阪神間モダニズムの今」
36.芦屋市国際交流協会	2023年3月26日	講演演題「芦屋・阪神間モダニズムに見られる外国人との共創ー国際交流・多文化共生の時代から共創の時代へ」
37.武庫川女子大学生活美学研究所	2023年3月8日	コーディネーターとして「ベトナムからの市民によるまちづくりへの貢献　多文化共生の時代から共創の時代へ」
38.芦屋市立山手小学校　ゲストティーチャー	2023年1月12日	５年図画工作科（安部太一郎先生）「小さな建物大集合」
39.芦屋市立山手小学校　ゲストティーチャー	2023年1月11日	５年図画工作科（安部太一郎先生）「小さな建物大集合」
40.兵庫県教育委員会「阪神くすの木学級」	2022年11月13日	講演演題「阪神間の文化探訪－尼崎市・西宮市・芦屋市などの街を探訪しよう」
41.大阪市・中央区役所「『中央区魅力発信 － 2022 －』水辺と船場・ミナミをめぐるまちあるき＆トークイベント」（大阪城天守閣復興90周年記念事業）	2022年10月29日	講演演題「水辺の魅力発見・散策ツアー」 ～ クルーズで巡る水都大阪と天守閣復興90周年を迎えた大阪城の今昔 ～」（クルーズ船上での解説）
42.阪神南県民センター・芦屋市役所・西宮市役所・阪神電気鉄道株式会社「知る・見る・巡る ～ 魅 力 再 発 見 ～ 阪神間モダニズム 現代に受け継がれる独創美」セミナー	2022年10月15日	講演演題「阪神間モダニズム時代のライフスタイル～グルメから建築まで～」
43.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2022年6月21日	講演演題「多文化共生のまちづくり」
44.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2022年5月18日	講演演題「阪神間モダニズムの今」
45.豊中市制85周年記念「憧れのモダン都市とよなか」（とよなか国際交流センター）	2022年2月26日	講演演題「モダン豊中見聞そぞろ歩き　－ガーデン・シティの面影をさがしてー」
46.まちなみで知る西宮の魅力（西宮まちなみ発見倶楽部）	2022年2月23日	講演演題「ミルフィーユと石で読み解くパリと阪神間のまちなみ」（講演後、佐藤亘一郎・西宮市都市デザイン課課長と対談）
47.芦屋市制80周年記念　芦屋文化ゾーンシンポジウム　「芦屋の魅力のルーツを探る　歴史・文化・SDGｓの視点から紐解く」（芦屋市立美術博物館）芦屋市教育委員会	2021年11月13日	講演「阪神間モダニズム」、およびパネルディスカッション
48.芦屋市制施行８０周年記念式典シンポジウム（ルナホール）	2021年11月7日	伊藤舞市長をはじめパネラーと対談
49.宝塚くらしの中のアート発見プロジェクト オンライントーク（宝塚市役所）	2021年10月27日	講演演題「阪神間モダニズムとホームパーティー　～家の中で醸される文化～」
50.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2021年6月24日	講演演題「多文化共生のまちづくり」
51.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2021年6月23日	講演演題「阪神間モダニズム文化考察　あしや学からASHIYA学へ」
52.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2021年5月20日	講演演題「阪神間モダニズムの今」
53.はびきの市民大学（羽曳野市）	2021年3月15日	講演演題「京阪神のモダニズム建築を訪ねる」
54.はびきの市民大学（羽曳野市）	2021年3月15日	講演演題「京阪神のモダニズム住宅地　ー羽曳野モダニズムー」
55.本学　生活美学研究所　第30回記念秋季シンポジウム「多文化共生の場の多様性－多文化共生を再考する－」	2020年12月5日	講演「多文化共生まちづくりにおける地域日本語教室の役割　多文化共生の現場から」、およびコーディネーターとして田村太郎氏、山近資成氏（新宿区役所・早稲田大学）と対談
56.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2020年10月14日	講演演題「世界のもてなし・芦屋のもてなし　～美食空間学からの視点から～」
57.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2020年7月29日	河内厚郎氏（文化プロデューサー）の代理　講演演題「阪神間モダニズムの光と翳」
58.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2020年7月29日	講演演題「あしや学からASHIYA学へ」
59.聞いて食べて考える、お好み焼きと神戸の街のこれからの関（EAT LOCAL KOBE）	2020年2月2日	講演演題「聞いて食べて考える、お好み焼きと神戸の街のこれからの関係」（にくてんの実演あり・長田区r3）
60.はびきの市民大学（羽曳野市）	2020年1月18日	講演演題「美食空間学にみる世界のおもてなし」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
61.コープこうべ・コープくらぶ・わくわく・ドキドキ・学び隊	2019年12月8日	まち歩きの講師「身近で発見！　石の街・芦屋を歩く」
62.神戸市役所「FARM TO FORK」トークセッションEAT LOCAL KOBE（三宮・東遊園地）	2019年11月	講演演題「にくてん・神戸の街とお好み焼き」
63.国名勝指定記念講演会（豊中市教育委員会）	2019年9月29日	講演演題「近代郊外住宅地と西山氏庭園」
64.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2019年7月24日	講演演題「あしや学からASHIYA学」
65.兵庫県「阪神シニアカレッジ」	2019年5月28日	講演演題「阪神間モダニズムの今」
66.芦屋市立美術博物館　オープニング記念講演会	2019年4月14日	講演演題「阪神間モダニズム～源流と伏流水」（河内厚郎氏の代理）
67.旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）の保存修理工事完成記念シンポジウム『旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）と阪神間モダニズム』（ルナホール）	2019年3月16日	講演「阪神間モダニズムと芦屋」およびパネルディスカッションのコーディネーターを務める
68.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2019年2月20日	講演演題「あしや学からASHIYA学へ」
69.本学　生活美学研究所　秋季シンポジウム「阪神間モダニズムの観る景色」	2018年12月1日	講演「美食空間学から見た阪神間」およびコーディネーターとして、河内厚郎氏（評論家）、河崎晃一氏（美術家）との対談
70.阪神南リレーミュージアムフォーラム（阪神南県民センター）	2018年10月13日	講演演題「文化で感じる阪神南の150年」
71.豊中市役所「市民フォーラム　豊中の未来の話をしよう」	2018年6月24日	講演演題「豊中のまちと未来について」
72.本山北町まちづくり協議会・講演会（神戸市東灘区）	2018年6月24日	講演演題「世界遺産的に見た本山北町の魅力、石垣、谷崎潤一郎、阪急分譲地など」
73.未来をつくる芦屋100人会議・クロストーク（芦屋市）	2018年6月23日	兼松佳宏氏が進行
74.西宮文学案内春季講座（西宮市文化振興財団）	2018年5月12日	講演演題「甲陽園100周年　PART Ⅰ　美食空間学で読み解く甲陽園」（講演後、津曲孝氏と対談）
75.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2018年2月21日	講演演題「芦屋の石の色」
76.県政150周年記念地域創生セミナー『阪神間モダニズム～未来に生かすその精神風土～』（兵庫県主催）	2018年2月14日	講演演題「夢かなう郊外住宅地、花開くおもてなし文化ーホテル・スイーツー」
77.未来をつくる芦屋100人会議・パネルディスカッション（芦屋市）	2017年6月17日	大森一樹氏（映画監督）、山崎亮氏（コミュニティデザイナー）、中田有子氏との対談
78.宇都宮美術館開館20 周年・宇都宮市制施行120 周年記念シンポジウム	2017年2月26日	講演演題「大谷石の近代建築ー国際性と地域性」
79.神戸まちづくり学校（神戸市役所まち再生推進課）	2016年12月3日	みなと・こうべの山の手学　お屋敷町とケーキ屋さん誕生の秘密「まち歩き②　石垣の街並みと神戸の洋菓子史を歩いて学ぶ」
80.神戸まちづくり学校（神戸市役所まち再生推進課）	2016年12月1日	みなと・こうべの山の手学　お屋敷町とケーキ屋さん誕生の秘密「座学②　お屋敷町の姿とケーキ屋さんの歴史を学ぶ」
81.神戸まちづくり学校（神戸市役所まち再生推進課）	2016年11月12日	みなと・こうべの山の手学　お屋敷町とケーキ屋さん誕生の秘密「まち歩き①　日本を代表するお屋敷町を歩いて学ぶ」
82.神戸まちづくり学校（神戸市役所まち再生推進課）	2016年11月10日	みなと・こうべの山の手学　お屋敷町とケーキ屋さん誕生の秘密「座学①　お屋敷町に誕生した美術館･学校･病院。市民によるまちづくりに学ぶ」
83.秋の公民館講座　開校記念講演会（芦屋市・芦屋市教育委員会主催）	2016年10月6日	講演演題「ル・コルビュジエとライト建築と芦屋　～コルビジュエ建築が世界遺産となった2016年」
84.多文化共生を考える国際フォーラム「音楽とトークで描く芦屋の未来」（芦屋市・芦屋市教育委員会主催）	2016年5月14日	講演「フランスの子どもたちから学ぶ平和」および座談会のコーディネーターを務める　座談会「阪神間における多文化共生」はダルビッシュ・セファット・ファルサ氏、愛新翼氏、ダリア・アナビアン氏、三宅
85.芦屋市公民館「芦屋川カレッジ」	2015年12月9日	講演演題「芦屋から始める世界の石の風景紀行　その１～ヨーロッパから南米編～」
86.茨木市商工会議所「茨木がパリに見えてくるかも？講演会」	2015年1月19日	講演演題「茨木がパリに見えてくるかも？」
87.ヨドコウ迎賓館 竣工 90 周年記念セミナー（淀川製鋼所・芦屋市）	2014年10月4日	講演演題「世界の巨匠たちと芦屋川　－ 芦屋とヨドコウ迎賓館 －」
88.芦屋市公民館　「芦屋川カレッジ」	2014年9月24日	講演演題「芦屋の街の色」
89.大阪市淀川区みつや交流亭「笑福亭仁男の落語DEカルチャ！」講演会	2014年7月7日	講演演題「パリの下町に恋して」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
90.芦屋ユネスコ協会・記念講演会	2014年6月20日	講演演題「素顔のパリー移民と社会的混合（ミキシテ・ソシアル）」
91.日本建築家協会兵庫地域会・総会記念講演会	2014年4月17日	講演演題「社会的混合（ミクシテ・ソシアル）と美食空間学」
92.パリ・天理日仏文化協会文化講演会	2014年3月20日	講演演題「美食空間学」-日本料理からBENTOの世界-
93.徳島市パネルディスカッション（作曲家　三枝成彰・建築家　團紀彦）	2013年3月24日	パネルディスカッションまちにとっての芸術・文化ホールの可能性とは 三枝成彰氏・ 團紀彦氏・原秀樹徳島市長との対談（コーディネーター）ホテルクレメント
94.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2013年3月6日	講演演題「谷崎潤一郎と村上春樹が描いた芦屋の色」
95.大阪市港区役所・大阪市港湾局「築港・天保山ラウンドテーブル」特別講演	2013年2月13日	講演演題「大阪の魅力がいっぱいつまった築港・天保山エリア」
96.世界遺産をめざす芦屋川を歩く（あにあんクリエイト）	2012年11月25日	まち歩きの講師「世界遺産をめざす芦屋川を歩く」
97.芦屋市・秋の公民館講座「芦屋川の魅力を探るー４月に芦屋市文化財に指定」	2012年10月4日	講演演題「芦屋川学事始め」
98.芦屋市立公民館講演会	2012年7月9日	講演演題「芦屋と世界遺産」
99.西宮市立鳴尾小学校3年生	2012年6月15日	講演演題「鳴尾苺　鳴尾いちご　鳴尾イチゴ」
100.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2012年6月4日	現地見学会・講演演題「阪神間の迎賓館・旧甲子園ホテル」
101.西宮市生涯学習大学「宮水学園」必須講座	2011年10月27日	講演演題「西宮まち物語」
102.関西学院大学先端社会研究所シンポジウム「関西私鉄文化を考える」	2011年10月1日	講演「ケーキ・ホテル・プロ野球から阪神間を読みとく―アイデンティティ・デザインの視点から」、およびパネルディスカッション（島村恭則氏、難波功士氏、山口覚氏、三宅正弘）
103.金沢市・大野町公民館・講演会（金沢市地域コミュニティ活性化支援事業）	2011年8月20日	講演演題「B級グルメにご用心」
104.西宮市立鳴尾小学校３年生	2011年7月13日	講演演題「鳴尾の歴史・風習」
105.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2011年6月3日	現地見学会・講演演題「阪神間の迎賓館と甲子園ホテル」
106.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2011年5月25日	講演演題「谷崎潤一郎と村上春樹が描いた芦屋の色」
107.神戸キワニスクラブ例会・講演会　ホテル・オークラ神戸	2011年4月11日	講演演題「神戸の町の見方、楽しみ方～にくてんからケーキまで～」
108.茨木市役所（都市整備部　まちづくり支援課）「まちづくり寺子屋」での講演	2011年2月21日	講演演題「『地域資源を活かしたまちづくり』　～町家・町割り・町石・町菓子さがし～」
109.「神戸野菜の日プロジェクト」（野菜ソムリエコミュニティ兵庫）基調講演	2010年7月31日	
110.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2010年7月28日	講演演題「わたしの街はさくら色」
111.兵庫県立淡路夢舞台温室・奇跡の星の植物館　ミニシンポジウム	2010年3月28日	シンポジウム名「日本の遊山文化」へ出演
112.兵庫県阪神南県民局「阪神南再発見☆もだんバス」での解説	2010年3月5日	「新酒を味わう　日本酒の来た道」、「甲子園ホテル」などの解説
113.交通まちづくり学研究会講演会　キャンパスポート大阪	2010年1月29日	講演演題「ケーキ立国にっぽん　－ケーキ屋さんが動かす街－」
114.西宮市・こども環境活動支援協会「語り部セミナー」	2010年1月12日	講演演題「食の都・西宮と甲子園ホテル」
115.篠山市商工会「今田新春交流会」基調講演	2010年1月10日	講演演題「今田豆腐で丹波石をデザイン　～地域資源の発掘と再発見」
116.食事サービス活動セミナーin徳島（食から考えるコミュニティづくり～地域の地域による地域のための配食サービス）（阿波銀ホール・旧郷土文化会館）	2009年12月6日	講演演題「思い出の玉手箱・弁当箱」
117.篠山市・第五回あかりサミット・基調講演・あかりサミット2009 in篠山実行委員会(篠山市市民センター)	2009年11月7日	講演演題[地域にあかりをともそう]
118.大阪市立大学COU研究会「地産素材を使ったアーバンデザイン」	2009年9月18日	講演演題「六甲山の花崗岩　－御影石（サクラミカゲ）を使った阪神間のまち並みづくり」
119.西宮青年会議所「にしのみやTERAKOYA　～宮っ子育成プログラム2009」講師	2009年9月13日	小学生へ向けたの甲子園ホテル案内
120.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2009年6月24日	講演演題「わたしの街は桜色」
121.本学　東京センター開設記念講演会　東京・帝劇ビ	2009年3月28日	講演演題「東の帝国ホテルと西の甲子園ホテル～近代

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
ル		建築の巨匠　フランク・ロイド・ライトの足跡～」 「帝国ホテルから甲子園ホテルに引き継がれた味」
122.西宮コミュニティ協会「地域コミュニティ人材育成研修会」	2009年3月	講演演題「食の都・西宮」
123.兵庫県福崎町商工会・フォーロアン講座（兵庫県・福崎エルデホール	2009年1月23日	講演演題「播磨『食の歳時記』　―ケーキからにくてんまで―」
124.徳島県教育委員会・夢街道シンポジウム「古墳から寺院へのみち」（脇町劇場オデオン座）	2009年1月18日	美馬市長・牧田久氏と「文化遺産と市民参加・美馬市の可能性」について対談
125.本学　東京センター開設記念講演会・帝国ホテル東京	2009年1月17日	講演演題「東の帝国ホテルと西の甲子園ホテル～近代建築の巨匠　フランク・ロイド・ライトの足跡～」 「帝国ホテルから引き継がれた日本のホテル文化」
126.猪名川町・生涯学習カレッジ・リバグレス猪名川「猪名川のまち」	2009年1月10日	講演演題「猪名川の住宅開発史」
127.西宮市立鳴尾小学校3年生	2008年12月18日	講演演題「鳴尾の歴史と鳴尾苺」
128.第1回あしや市民フェスタ（芦屋市）講演会	2008年11月22日	講演演題「私たちの宝『芦屋川』　～未来を託す子どもたちへ」
129.猪名川町・生涯学習カレッジ・リバグレス猪名川「猪名川のまち」	2008年10月25日	講演演題「猪名川の川づくりの歴史」
130.兵庫県阪神南県民局「もだんる一ぷバス」講演会（西宮市大谷記念美術館）	2008年10月12日	講演演題「阪神南スイーツ物語」
131.徳島県立総合大学校まなび一ぴあ徳島本部主催講座（徳島県自治研修センター）	2008年10月9日	講演演題「遊山箱から見える徳島　－遊山箱をきっかけに徳島の魅力を再発見しませんかー」
132.西宮市産業振興課「西宮のごちそう！２００８」（西宮神社会館福寿の間）	2008年10月5日	講演演題「食の都にしのみや」
133.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2008年7月9日	講演演題「わたしの街はさくら色」
134.全国市町村研修財団・市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)研修会「地域文化の創造」(千葉市)	2008年7月2日	講演演題「地域に根ざした文化を活かすまちづくり」
135.Business Up ゼミ関西（関西社会人大学院連合）「ビジネスで活きる日本文化ゼミ」（キャンパスポート大阪）	2008年6月22日	講演演題「歳時記ビジネス最前線　～暦と伝統料理でプロデュース～」
136.神戸新聞創刊110周年記念事業「地才地創シンポジウムIN阪神南パネルディスカッション」	2008年5月16日	「モダニズムの古都　こがれまち　こだわりのミュージアムが未来を拓く」でのパネリスト
137.芦屋川ロータリークラブ・川クラブ講演会	2008年5月10日	講演演題「川づくりから街づくりへ」
138.芦屋市公民館　冬の公民館講座「兵庫史を歩く一秘められた魅力と謎に迫る」	2008年3月7日	講演演題「芦屋のデザインは・・・－ケーキと石から文化を探る」
139.徳島県「食フォーラムとくしま2008」パネルディスカッション（大塚ヴェガホール）	2008年2月16日	小山裕久（平成調理師専門学校校長）、田中健一郎氏（帝国ホテル総料理長）、三宅正弘
140.猪名川町（猪名川町立ふるさと館）歴史講座「わがまち猪名川を考える」	2008年1月20日	講演演題「猪名川の川づくりからまちづくりへ」
141.松江市「大橋川勉強会」（財）島根ふれあい環境財団２１　ふれあい環境助成金事業　・島根大学白潟サロン	2007年11月28日	講演演題「川と街をつなぐ景観まちづくり」
142.国土交通省近畿地方整備局「地域づくり研修」	2007年10月15日	講演演題「まちづくりのソフトとハード」
143.ＷＡＶＥ平成１９年度第２回港湾フォーラム（みなと総合研究財団・東京都港区）	2007年10月1日	講演演題「港と街をつなぐデザイン」
144.徳島県庁・国民文化祭５０日前イベント「遊山箱ーこころ伝える玉手箱」パネルディスカッション（郷土文化会館）	2007年9月7日	服部幸應氏（服部栄養専門学校校長）、藤村志保氏（女優）、市川森一氏（脚本家）、飯泉嘉門氏（徳島県知事）、三宅正弘での対談
145.大阪人間科学大学 現代GP 個性的な地域を創生する人材育成プログラム　リレー公開講座	2007年6月25日	講演演題「摂津のお弁当箱作り―徳島の遊山箱に学ぶー」
146.徳島市弁天山桜まつり　講演	2007年4月7日	講演演題「弁天山で『遊山箱』を楽しもう」
147.神戸市灘区役所まちづくり推進部「灘大学公開講座・修了記念講演会」	2007年3月10日	講演演題「お好み焼とお地蔵さん」
148.徳島市篭屋町商店街「かごや町・さくら祭り」	2007年3月5日	講演演題「遊山箱」
149.全国史跡整備市町村協議会徳島県支部　設立10周年記念シンポジウム（鳴門市ドイツ館）	2007年2月25日	講演演題「宝の眠る徳島のまち」、講演後、川上光洋氏らとのシンポジウムに参加
150.高砂市教育委員会　竜山石フォーラム　竜山石を語ろう2006　石の文化とまちづくり	2006年12月3日	講演演題「石の文化とまちづくり」、講演後、北垣聰一郎氏らと討論会
151.三好市役所　東祖谷山村落合重要伝統的建築物群保存地区　選定1周年記念シンポジウム	2006年11月25日	パネラーとして出演

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
152.兵庫県阪神南県民局「HANSHINKAN NAVETTE-MUSEE」一日だけうごく美術館	2006年11月3日	解説博士・ケーキドクトル
153.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2006年10月5日	講演演題「三宅正弘と歩くふるさと芦屋　石の鑑定コース」
154.猪名川フォーラム in 尼崎　基調講演　（水辺まつり＆猪名川フォーラム実行委員会）英知大学	2006年9月18日	講演演題「猪名川の川づくりから街づくり」
155.兵庫県神戸県民局　ふるさとひょうご創生塾	2006年9月16日	講演演題「地域づくりの事例とその進め方」
156.徳島県美波町役場「アカテガニ放仔観察会」コンダクター	2006年9月8日	講演演題「アカテガニの自然産卵」
157.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2006年7月12日	講演演題「芦屋とケーキと街並みと」
158.全国女性建築士連絡協議会・香川大会	2005年12月1日	講演演題「地域と共生する住環境づくり～身近な素材を未来につなぐ～」
159.徳島県庁・第9回徳島県文化祭「伝統芸能フェスティバル」農村舞台と阿波人形浄瑠璃パネルディスカッション（市立徳島城博物館）	2005年11月20日	人間国宝・鶴賀若狭掾師匠と対談
160.芦屋川カレッジ１９同期会・基調講演（芦屋市民センター）	2005年10月29日	講演演題「街の暮らしとお店」
161.兵庫の川サミット（篠山市）基調講演　篠山市民センター	2005年10月22日	講演演題「川づくりに新しい視点を」
162.阿南市教育委員会・徳島県県民環境部国際文化課・とくしま文化フォーラム・文化資源を活用した地域づくりパネルディスカッション（阿南市文化会館）	2005年10月18日	パネラーとして出演
163.夙川学院短期大学・社会人講座・阪神間ミュージアムリレー講座「文学」	2005年10月15日	
164.徳島県那賀川町知的障害者更生施設シーズ今津分場・開所式基調講演	2005年9月30日	講演演題「施設から街へ」
165.美馬市教育委員会・徳島県県民環境部国際文化課・とくしま文化フォーラム・文化資源を活用した地域づくりパネルディスカッション（脇町劇場　オデオン座）	2005年9月23日	パネラーとして出演
166.川西市明峰公民館・川西市公民館講演	2005年9月16日	講演演題「老舗ニュータウンを元気に」
167.日本文化デザイン会議’06in とくしま	2005年8月12日	講演演題「かっこいいライフスタイルのある街・徳島」
168.徳島県私立学校教職員研修会	2005年7月26日	講演演題「とくしま再発見　～食・生活・文化～」
169.徳島県由岐町伊座利漁業協同組合・交流促進シンポジュウム・伊座利の未来を考える推進協議会	2005年7月22日	講演演題「本物の街と本物の歌舞伎のある街」
170.徳島市開発部・講演会（ホテルクレメント徳島）	2005年7月22日	講演演題「色のある街・とくしま」
171.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2005年7月6日	講演演題「芦屋とケーキと街並みと　ピンク色のまち」
172.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2005年6月4日	講演演題「街にひそむ小さな橋めぐり石めぐり」
173.兵庫県阪神南県民局地域ビジョン委員会主催講演会・阪神間の未来	2005年3月21日	講演演題「阪神間の未来　ファッション環境の魅力あるまち」
174.芦屋市立公民館主催・文化セミナー（芦屋市民センター）	2005年3月16日	講演演題「芦屋とケーキと散歩道」
175.日本都市計画学会中国四国支部と国土交通省・四国地方整備局建政部との懇談会「美しく魅力的なまちづくりを目指して一景観の視点から」（サンポート高松シンボルタワー）	2004年11月17日	講演演題「四国を元気にする景観デザイン」
176.愛媛県・建築士会新居浜支部技術セミナー（愛媛県・新居浜市民センター）	2004年10月28日	講演演題「新居浜と私、石の街並みと地域デザイン」
177.愛媛町南予地域観光振興イベント・えひめ町並博・自主企画イベント石積み復元体験ツアー（愛媛県愛南町・外泊公民館）	2004年10月23日	講演演題「各地における石垣の文化と外泊の占める位置」
178.武庫川女子大学生活美学研究所定例研究会（講演）	2004年10月16日	講演演題「匠（たく）まざる匠の力　石垣と石積」
179.由岐町地域振興課・放仔観察会	2004年9月28日	講演演題「アカテガニの自然産卵」
180.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2004年9月25日	講演演題「三宅正弘と歩く　歩いてこそ芦屋」
181.徳島市開発部・講演会（ホテルクレメント徳島）	2004年8月21日	講演演題「目の前に隠れている徳島のまちづくり資源」
182.芦屋市立公民館　芦屋川カレッジ	2004年7月14日	講演演題「芦屋のケーキと街並みと」
183.積水ハウス・全国エクステリアコンペ審査会記念講	2004年7月12日	講演演題「石の街並みと地域デザイン」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
演（梅田スカイビル）		
184.夙川学院短期大学・講演会・シリーズ「文化を考える」	2004年5月12日	講演演題「お好み焼き屋さんからまちづくり」
185.夙川学院短期大学・講演会・シリーズ「文化を考える」	2004年4月21日	講演演題「ケーキ屋さんからまちづくり」
186.兵庫県県民政策部生活創造活動プランナー養成講座	2004年3月11日	講演演題「私たちと地域活動」
187.三加茂町商工会・研修会	2004年3月10日	講演演題「ケーキの街見学会」（バスツアー解説）
188.兵庫県県民政策部生活創造活動プランナー養成講座	2004年2月26日	講演演題「阪神地域の地域デザインを考える」
189.経済産業省・四国経済産業局・若者の参画による中心市街地活性化のアイディアと実践（阿波観光ホテル）	2004年2月17日	コーディネーターを務める
190.徳島商工会議所・わが街再生プログラム事業Final街づくりフォーラムタイムテーブル	2004年2月12日	フォーラム・街づくり共同体ーオープンスタジアムへの出演
191.徳島県・三加茂町商工会・街おこし指導事業講演会	2004年1月29日	講演演題「ケーキ研究家が語る!!また行きたいケーキ屋さんって!?」
192.日本商工会議所職員研修会・徳島商工会議所	2003年12月1日	講演演題「ケーキ・石・お好み焼きから街づくり」
193.芦屋市立公民館　芦屋川カレッジ	2003年11月19日	講演演題「あしやと芦屋のASHIYA楽」
194.徳島マリンピア・ライオンズクラブ・講演会（徳島プリンスホテル）	2003年10月16日	講演演題「店からのまちづくり」
195.徳島県海部郡由岐町産業建設課「癒し空間創造プラン」地球元気村トーク&ライブ	2003年10月4日～5日	講演演題「月と潮の関係」
196.徳島県海部郡・由岐町立木岐小学校の3・4年生	2003年9月17日	演題「石を使った石積み（石垣）のアカテガニのすみか作り」（アカテガニの家をつくろう）
197.徳島市役所開発部「都市デザインセミナー」（ホテル千 秋閣）	2003年7月25日	講演演題「ケーキ･寿司・お好み焼き・カフェからの街づくり」
198.徳島県海部郡・由岐町立木岐小学校の3・4年生	2003年7月16日	演題「アカテガニの観察」
199.大和ハウス総合技術研究所・講演会	2003年6月26日	講演演題「次世代の住宅と住宅街に何が必要か　ケーキ屋さんからみた街のデザイン」
200.コミュニティビジネスと港湾空間活性化の課題（パネラープレゼンテーション）　徳島県・小松島港	2003年3月1日	
201.日本石材産業協会・福島支部設立総会記念講演（福島県・郡山ビュー ホテル）	2003年2月17日	講演演題「地場産石材を使った街づくり」
202.徳島商工会議所「わが街再生プログラム事業」（徳島ワシントンホテル）	2003年2月17日	講演演題「市民とつくる都心再生とは」
203.芦屋市立山手小学校3年生社会科の授業（芦屋市立山手小学校）	2002年7月17日	講演演題「自由研究のすすめ」
204.夙川学院短期大学講演会（夙川学院短期大学）	2002年3月2日	講演演題「阪神間の風景」
205.兵庫県庁生活部生活創造課「生活創造活動プランナー養成講座」（兵庫県尼崎市立女性センター）	2002年2月14日	講演演題「生活創造活動プランナー養成講座」
206.徳島商工会議所「わが街再生フォーラム」（パネラープレゼンテーション）徳島商工会 議所	2002年2月4日	講演演題「市民が語る都心再生のあり方」
207.徳島県商工会連合会他・講演会（徳島県市場町商工会館）	2002年2月4日	講演演題「お菓子の魅力の再発見」
208.兵庫県庁生活部生活創造課「生活創造活動プランナー養成講座」（兵庫県尼崎市立女性センター）	2002年1月24日	講演演題「生活創造活動プランナー養成講座」
209.和歌山県庁・紀淡海峡交流会議（奈良県五條市リバーサイドホテル）	2002年1月22日	講演演題「紀淡海峡周辺地域の交流資源」
210.兵庫県都市整備協会・ひょうごまちづくりセンター「復興まちづくりセミナー」（西宮市プレラホール）	2001年11月26日	河内厚郎氏（評論家）、堀江珠喜（比較文学者）、辰馬章夫（辰馬本家酒造社長）と対談
211.和歌山県庁・徳島県庁「子ども交流フェスタ」（あすたむランド徳島）	2001年11月23日	講演演題「和歌山と徳島のつながり」
212.こうべまちなみゼミ、神戸市役所・都市計画局「こうべまちなみゼミ」	2001年11月15日	講演演題「住吉川周辺地区と魚崎会館」
213.羽曳野市「はびきの市民大学」文化開発学（羽曳野市立生活文化情報 センター）	2001年10月13日	講演演題「ヒアリングのすすめ」
214.夙川学院短期大学朝日カルチャーセンター共催講座（大阪朝日カルチャーセンター）	2001年9月8日	講演演題「阪神間のケーキ文化」
215.夙川学院短期大学朝日カルチャーセンター共催講座（大阪朝日カルチャーセンター）	2001年7月28日	講演演題「阪神間の風景」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
216.尼崎南部再生研究室・講演会	2001年6月23日	講演演題「尼崎の地ソース」
217.羽曳野市「はびきの市民大学」文化開発学（羽曳野市立生活文化情報 センター）	2001年5月27日	講演演題「ケーキとまちづくり」
218.芦屋市公民館　芦屋川カレッジ	2001年5月23日	講演題目「あしや学事始」
219.羽曳野市「はびきの市民大学」文化開発学（羽曳野市立生活文化情報 センター）	2001年5月20日	講演演題「オールドタウンとニュータウン」
220.阪急電鉄住宅営業部「阪急・ 住文化サロン」（阪急電鉄西宮モデルハウス）	2001年2月23日	講演演題「ポスト阪神間モダニズムの奇跡・住宅街の主役たち第2回住宅街とイタリアンレストラン」
221.兵庫県庁・徳島県庁・紀淡海峡交流研究会（大塚国際美術館）	2001年1月16日	講演演題「紀淡海峡の魅力」
222.阪急電鉄住宅営業部「阪急・ 住文化サロン」（阪急電鉄西宮モデルハウス）	2000年12月9日	講演演題「ポスト阪神間モダニズムの軌跡」
223.大阪市教育委員会・高齢者大学講座「芸術のまち・大阪」大阪市立北市民教養ルーム	2000年11月29日	講演演題「なにわの歴史と文化２」
224.西宮市役所・西宮商工会議所「西宮洋菓子園遊会」（都ホテル）	2000年11月28日	講演演題「取っておきのケーキの話し」
225.大阪市教育委員会・高齢者大学講座「なにわの歴史と文化」大阪市立北市民教養ルーム	2000年10月11日	講演演題「なにわの歴史と文化１」
226.神戸山手大学「オープンキャンパス環境文化ミニシンポジューム」	2000年7月29日	講演演題「北野の魅力を解読する　フィールドワークのすすめ」
227.神戸まちづくりネットワーク講演会（神戸市立まちづくりセンター）	2000年5月17日	講演演題「六甲山の水害とまちづくり」
228.兵庫県庁・紀淡海峡交流会議（淡路島国際ホテル・アレックス）	2000年2月3日	講演演題「地域間交流の推進・拡大に向けての方策」
229.大阪市教育委員会・高齢者大学講座「芸術のまち・大阪」大阪市立北市民教養ルーム	1999年10月28日	講演演題「美術―美術に触れる」（見学解説）
230.大阪市教育委員会・高齢者大学講座「芸術のまち・大阪」大阪市立北市民教養ルーム	1999年10月7日	講演演題「美術―芸術作品に触れる博物館めぐり」バス見学会解説
231.芦屋市文化振興財団シルバーカレッジ・芦屋川カレッジ	1999年5月26日	講演演題「あしや学事始」
232.兵庫県教育委員会「阪神間ミュージアムネットワーク・阪神間の美術コレクションを訪ねて」講演会・バスツアー	1998年11月6日	講演演題「阪神間モダニズムと美術コレクション」（料亭・播半などを案内解説）
233.兵庫県教育委員会「阪神間ミュージアムネットワーク・阪神間の美術コレクションを訪ねて」講演会・バスツアー	1998年10月29日	講演演題「江戸・摂津文化と阪神間モダニズム」
234.ひょうご学研究会第十五回定例会（兵庫県私学会館）	1997年5月27日	講演演題「阪神間の石垣文化を大切にしたい」
235.芦屋文化復興会議シンポジューム「芦屋の文化・歴史・生活･芸術」（芦屋・山村サロン）	1997年2月23日	講演演題「芦屋山麓住宅史　松風山荘を考える」
236.阪神・淡路大震災2周年記念事業阪神・淡路震災復興支援10年委員会文化復興支援フォーラム　-震災復興と阪神文化の再生-　阪神淡路震災復興支援１０年委員会（阪神淡路大震災復興支援館）	1996年1月31日	パネリストとして事例報告
237.豊中市連合自治会・講演会（旧豊中倶楽部）	1994年4月24日	講演演題「豊中新市街、小林一三の構想」
238.阪神間サミット「ガーデンシティ・阪神間」（旧甲子園ホテル）	1993年11月3日	講演演題「田園都市・阪神間像　ガーデンシティ・阪神間」
239.以下は国・自治体等の依頼先および講演会の行事名	1993年4月1日以降	講演演題および役割、対談者
240.教育委員会における社会教育および学校教育（小学校3校）、他に自治体による生涯学習、高齢者大学、また地域貢献や研究成果の地域への還元等の貢献について		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.芦屋市立山手小学校，学校運営協議会・会長	2024年5月～	会長
2.公益財団法人兵庫県スポーツ協会「海洋体育館イノベーション構想検討会議」	2023年8月22日以降	座長
3.宝塚市役所　産業文化部　宝のまち創造室　観光企画課「ニュー宝塚観光プレゼンテーション審査員」	2023年8月7日	
4.兵庫県阪神南県民センター「令和５年度　阪神南マリンスポーツ関係者連絡会」学識者	2023年8月～	
5.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明会」コーディネーター（西宮北口会場）	2023年7月30日	
6.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明会」コーディネーター（塩瀬会場）	2023年7月29日	
7.西宮市役所「第5次西宮市総合計画後期基本計画説明会」コーディネーター（鳴尾会場）	2023年7月22日	
8.「具体」魅力発信推進委員会（兵庫県庁　阪神南県民センター）	2023年3月	2025年の万博開催に合わせて具体（美術）の魅力の発信に関する委員会
9.令和4年度多文化共生ネットワーク会議コーディネーター（兵庫県国際局国際交流課）	2022年	
10.令和３年度多文化共生ネットワーク会議コーディネーター（兵庫県国際局国際交流課）	2021年10月～	
11.「名勝西山氏庭園保存整備委員会委員」豊中市教育委員会	2020年5月～	
12.兵庫県「阪神間モダニズム再発信プロジェクト基本構想策定委員会委員」	2020年	
13.兵庫県地域創生戦略会議企画委員会分野別検討会委員	2019年4月～2020年3月	
14.豊中市教育委員会「豊中市文化財保護審議会委員」	2018年4月1日～	
15.大阪市港湾審議会委員	2017年9月1日	
16.神戸市役所「『神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成』に向けた勉強会」委員（住宅政策課）	2016年12月～2017年2月	
17.大阪市役所「 大阪港開港150年記念事業推進委員会アドバイザー」	2016年	
18.西宮市都市景観審議会委員	2012年7月～2014年6月	
19.芦屋市教育委員会「芦屋市文化財保護審議会委員」	2012年4月～2013年3月	
20.大阪市・区長アドバイザー（港区）	2012年	区政運営・都市計画への助言
21.美馬市教育委員会「舞中島文化的景観保護検討委員」	2011年6月～2013年3月	
22.三好市教育委員会「三好市伝統的建築物群保存地区保存審議会委員」	2011年4月～2013年3月	
23.芦屋市役所「芦屋市文化振興審議会委員」	2011年4月～2013年3月	
24.西宮市役所「環境計画推進パートナーシップ会議」委員	2011年	
25.大阪市役所「魅力あるリバーフロントの形成に向けた協議会（安治川地区）」会長	2010年4月～2011年3月	会長
26.西宮市都市計画マスタープラン策定委員会	2010年	
27.徳島県立総合大学校「とくしま政策研究センター客員教授」	2009年6月～2011年5月	
28.JAPANブランド育成支援事業『AWA愛遊山箱』推進委員会・委員長（徳島県商工会連合会）	2009年	委員長
29.西宮市屋外広告物審議会・会長	2009年	会長
30.徳島県教育委員会「いにしえ夢街道県民会議専門委員」	2008年6月～2011年3月	
31.徳島県教育委員会・いにしえ夢街道推進委員会	2008年	
32.兵庫県庁「阪神南地域ビジョン委員会専門委員」	2007年4月～2022年3月	
33.京都府長岡京市役所「まちづくり審議会臨時委員」	2007年4月	
34.奈良県庁「道路景観整備委員会委員」	2007年4月	
35.芦屋市教育委員会「芦屋市史編纂専門委員」	2007年4月	
36.新事業全国展開支援事業運営委員会・委員長（徳島県商工会連合会）	2007年	委員長
37.国土交通省港湾局「港湾における地域に根ざした文化的な景観の整備保全活用検討委員」	2007年	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
38.国土交通省河川局「河川景観ガイドライン検討委員会 委員」	2006年	
39.国土交通省四国地方整備局「四国のみずべ八十八カ所実行委員会徳島部会委員」	2005年3月	
40.徳島県庁「徳島県文化振興基本方策検討委員会委員」	2005年	
41.国土交通省河川局「河川における石積み構造物検討アドバイザー」	2005年	
42.国土交通省港湾局「美しい国土作りのための伝統的な石積み技術活用方策に関する懇談会委員」	2005年	
43.国土交通省四国地方整備局「道の駅アドバイザー会議アドバイザー」	2003年～2004年	
44.国土交通省四国運輸局「四国の新玄関拠点としての鳴門におけるバス交通の活性化委員会委員」	2003年	
45.国土交通省四国地方整備局「日和佐道路景観検討委員会委員」	2002年4月～2003年	
46.国土交通省四国地方整備局「日和佐道の駅検討委員会委員」	2001年11月～2003年3月	
47.国土交通省住宅局市街地建築課「歩いて暮らせる街づくり（小松島市）検討委員会委員」	2001年4月～2002年3月	
48.兵庫県庁・知事公室・夢ビジョン推進課「紀淡海峡交流会議委員」	1999年4月～2001年3月	
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.『近代日本土木史』	共	2018年7月10日	鹿島出版会	近代土木史研究の最新成果を取り入れつつ、編集・解説された土木史分野の図説教材である。文明や文化の形成において、土木が本来担うべき役割の再考を促すきっかけともなる。多岐にわたる土木の各分野を、各分野を代表するプロジェクトを選定し、その紹介を軸としながら、各分野の特徴を浮かび上がらせることを企図されている。三宅は第10章「郊外開発」を担当した。大阪圏・首都圏における私鉄の果たした役割、またフィジカルな開発事例およびソフト開発に関して執筆している。
2.関西私鉄文化を考える	共	2012年	関西学院大学出版会	関西圏および首都圏の開発における私鉄が果たした役割を解説した書籍である。私鉄創成期の郊外における事例や、近年の開発事例を扱ったものなど、特に関西私鉄が育んだ関西私鉄文化を論じた。三宅はそのなかで「ケーキ・ホテル・プロ野球から阪神間を読みとく」と部分を担当した。
3.新修芦屋市史　続篇	共	2010年11月10日	芦屋市役所	本書は市制七十周年にあたり、昭和四十年から平成十六年までが纏められた。三宅が市史編纂委員として下記の部分の執筆を行った。自分自身が生まれ育った街のその時代をまとめたものであり、従来の市史の執筆方法とは違って市民目線で記したことで、読者から親しみを持って読んでいただけたという反応があった。また他の著書と同様に地域資源の発見と発信をおこなったために、芦屋の石垣、芦屋の給食など執筆後にも再評価が行われたその後に様々なプロジェクトへつながっていくことに貢献できたと思われる。 第五章　まちのすがた すまいと暮らし 第一節　新しい居住形態の幕開け 一．マンションと企業住宅の形成 二．ため池と橋 三．山へ海へ延びる芦屋 第二節　村の伝統とモダニズムの再発見　昭和五十年代 一．伝統行事の再生 二．阪神間モダニズムと洋館 三．御影石の石垣とカイズカイブキの生垣 四．文学に描かれた芦屋の姿　村上春樹・谷崎潤一郎 第三節　芦屋の顔

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				一．山と海のまちの拠点　スーパーマーケット 第五節　まちの暮らし　新たな祭りとコミュニティ 一．新しいまちのコミュニティの形成とコミュニティ・スクール コミスクの活動・先駆的な学校給食・登山コミュニティ・コミュニティカレッジ・芦屋川カレッジ　二．市制五十周年　ケーキの街・芦屋　　三．中心市街地の変容　　四．まちの成熟　道路愛称とバス停 第六節　芦屋の曲がり角　一．まちのすがたの変容
4.『甲子園ホテル物語　－西の帝国ホテルとフランク・ロイド・ライト-』	単	2009年	東方出版	昭和５年に開業するとともに先駆的な構想を実現し、「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と称された甲子園ホテルの歴史を中心に、帝国ホテルの設計者フランク・ロイド・ライト、甲子園ホテルと同時代を生きた全国のクラシック・ホテルなどを紹介。
5.『遊山箱　一節句の弁当箱一』	単	2005年	徳島新聞社	私の研究スタイルは他の著書と同じように、まず地域資源を発掘し、それを新聞連載や著作にまとめていくことで、市民の方々と対話しながらプロジェクトを広げていくというものである。本書も徳島で発掘した遊山箱という節句に使う子ども用のお弁当箱について、徳島新聞の連載によって、この文化が復活していったプロセスをまとめたものである。このプロジェクトがひとつのきっかえけとなり、いまでは遊山箱は全国的にも周知されるようになって次世代へ引き継がれている。
6.『神戸とお好み焼き　一まちづくりと比較都市論の視点から一』	単	2002年	神戸新聞総合出版センター	関西の代表的な庶民の味、お好み焼き。大阪のイメージが強い食べ物ですが、実は神戸にも、独自のお好み焼き文化が根づいています。「にくてん」を起源とし、個人経営の店が多く、また、そんな店だけに卸すソース「地ソース」を作る会社が8社もあるというユニークな“神戸のお好み焼き文化”に注目した初めての本である。まちづくり・地域デザインを専門とする専門家としての立場から、食文化論を超えた斬新な考察を展開した。
7.『町衆企業とコミュニティ』	共	2001年	高菅出版 （三村浩史らとの共著）	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。この研究は京都を出発点としており、そのような役割を果たす企業を町衆企業としている。神田祭りの御神輿の担ぎ手として、また祇園祭の山鉾巡行に参加するなど、参与型の研究を行った成果である。私はこの著作では東京都千代田区とともに大阪市・船場地区について執筆した。千代田区の神田、船場では伏見町、平野町、道修町などの町内会長へのヒアリングをもとにまとめている。
8.『石の街並みと地域デザイン　一地域資源の再発見一』	単	2001年	学芸出版社	本書では、日本の風土が育んできた石の文化、培われてきたデザインを紹介し、それらが街並み形成、地域デザインに果たす役割を考察し、あまりにも身近で気づかれないでいた、しかし大きな可能性を秘めた石による地域計画、まちづくりの視点を提示した。
9.『近代日本の郊外住宅地』	共	2000年	鹿島出版会 （角野幸博らとの共著）	全国において近代に開発された郊外住宅地（一部海外ｍ含む）について、専門とする研究者らとともに執筆したもので、私は阪神間において代表的な別荘地開発となった松風山荘および六麓荘を事例に、既存の山林の松林を活用し、また開発時に地場から産出された花崗岩を用いて石垣などの住宅地の意匠を飾っていったことをまとめた。
10.『阪神間モダニズム』	共	1997年	淡交社 （小松左京らとの共著）	明治末から昭和初期にかけて六甲山麓に花開いた生活文化やライフスタイル、建築などをまとめた著作であり、私は花崗岩が織り成すランドスケープに関して執筆を行った。また数か所のコラムも担当した。共著者のなかで私は年齢が最も若かったために、取りまとめ役であった河崎晃一氏から「阪神間モダニズム」を次世代へつなぐためにできるだけ全体像を把握できるようにという配慮から、作成にあたり多くの機会をいただいた著作である。
2 学位論文				
1.山麓斜面地住宅地における風土的景観の特質とその保全に関する環境計画的研究		1998年	大阪大学　博士論文	本論文は、日本、とりわけ阪神間・六甲山麓部において近代以降に開発された山麓斜面地住宅地を対象に、風土的景観に着目して住宅地の計画論や街区形態および景観について分析し、その特質を明らかにすることを通じて、今後の斜面地住宅地開発や既開発住宅地の更新における計画・設計の指針に活かすべき知見を得ることを目指したものである。そして山麓斜面地住宅地の開発や更新における風

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
				土的景観特性の持続の必要性について論じ、新たな風土的景観を形成するための諸方策について論じている。
2.都心業務系複能地区における昼間人口・事業所のまちづくり参画に関する研究		1995年	京都大学　修士論文	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。この研究は京都を出発点としており、そのような役割を果たす企業を町衆企業としている。神田祭りの御神輿の担ぎ手として、また祇園祭の山鉾巡行に参加するなど、参与型の研究を行った成果である。特に東京都千代田区とともに大阪市・船場地区について着目し、千代田区の神田神保町など、また船場では伏見町、平野町、道修町などの町内会長へのヒアリングをもとにまとめている。
3.箕面有馬電気軌道による郊外住宅地開発に関する研究		1992年	関西大学　学士論文	小林一三が関わった箕面有馬電気軌道による初期の郊外住宅地のなかで、特に倶楽部、購買組合、幼稚園といった生活関連施設に関する形成について明らかにした。
3 学術論文				
1.「阪神間」の海水浴場（1905-1964）についての一考察	共	2025年3月15日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要	今井良広、三宅正弘
2.石と松から芦屋のまちづくりとアート 地域資源をいかした小学校の授業に関する研究1	単	2025年3月15日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要	
3.芦屋・西宮クルーズおよび芦屋西宮間の渡船の社会実験―身近な我が街を船から見るクルーズの研究3―	単	2025年1月31日	生活環境学研究	
4.大阪市浪速区・道頓堀川・木津川クルーズの地域資源―身近な我が街を船から見るクルーズの研究2―	単	2025年1月31日	生活環境学研究	
5.豊中クルーズにおける神崎川の利用と地域資源―身近な我が街を船から見るクルーズの研究1―	単	2025年1月31日	生活環境学研究	
6.ベトナムからの市民によるまちづくりへの貢献 多文化共生の時代から共創の時代へ	共	2023年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要第33号	
7.[居酒屋店における食事空間に関する研究 ―神戸市および高知市を事例に― 」（審査付論文）	単	2022年7月	地域施設計画研究No,40　日本建築学会	わが国では近年、社会的な交流において自宅が利用されることよりも、むしろ飲食店が選択される場合が多いと考えられる。飲食店がそれら社交の受け皿となっていることで、家庭的もしくは伝統的な住様式の趣向が反映されていることも考えられる。本論ではカウンター・テーブル・座敷など食事を行う座席配置を食事空間とし、その実態を調査することを目的とし、神戸市および高知市の中心市街地を対象にして分析を行ったものである。
8.地域日本語教室と子どもの居場所 －多文化共生のまちづくりへ－	単	2021年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要　第31号	学生とともに参加している「こくさいひろば芦屋」は、日本人と外国人とがともに学び合い、多文化共創のまちづくりに取り組む活動を行っており、その報告である。子どもたちが主体的に夏祭りらラジオ体操などの地域活動への参画、また中学生らが海外での食事の仕方や、家庭での過ごし方など、自分の言葉で話していくことができる講演会の開催など、地域住民にむけての学びの場づくりという視点からも、子どもたちの居場所づくりについて論じた。
9.多文化共生の現場から「こくさいひろば	単	2021年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要	多文化共生をテーマにしているなかで、外国人はこれからの地域の担い手であるという、担い手として共にどのように活動していくの

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
芦屋」を事例に			第31号	かについて論じた。私たちが普段、市民として生活していく中で、外国からの方々と出会い、共に楽しむ、或いは共に社会に取り組んでいく、どこかきっかけになるようなところはないかということを、近年全国に広がっています地域日本語教室、或いは子供たちの学習教室などを例に、地域との結びつき、地域と共にこれから社会活動に取り組んでいく可能性について述べた。
10.多文化共生に向けた地域日本語教室の特徴に関する研究（審査付論文）	単	2021年7月	地域施設計画研究No,39　日本建築学会	各市町村で行政や国際交流協会、NPO、市民グループによって大人向けや子ども向けの「地域日本語教室」が地域施設で開催されている。本研究は、兵庫県内の地域日本語教室（大人向け115・子ども向け66）を対象に、主催側の特性および活動の内容、活動場所となる施設を明らかにするとともに、計画の視点をもった建築領域における居場所の要素「主体性」、「多次元化」、「一緒に学ぶ（対等な立場）」に着目して、アイデンティティの発信、さらに地域日本語教室の課題となっている居場所づくりと対等な関係づくりについて、それらの課題に取り組む教室の活動を考察している。
11.国際会議　Ninth International Conference on Food Studies, National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism,Taiwan（台湾）	単	2019年10月24日	Food Studies Research Network	講演演題：Millefeuille and Napoleon as an international favorite, An internationally recognized cakes 国際的に認知されている菓子について、各地域における名称や形態についての特性を調査した結果を発表したものである。特にミルフィユ、ナポレオン、シュバルツベルダーなど、フランス、アメリカ、中国における考察を行った。
12.国際会議　Eighth International Conference on Food Studies, University of British Columbia, Vancouver（カナダ）	単	2018年10月26日	Food Studies Research Network	講演演題：Table size and counters for eating out フランスおよび日本における飲食店の食事空間の特性を明らかにした。特にカウンター・テーブル・座敷など食事を行う座席配置と、そのテーブルサイズについての調査結果を発表した。
13.国際会議 Troisieme Conference Internationaled' Histoire et des Cultures de l' Alimentation（フランス）Tables for eating out, A Table size in France and Japan	単	2017年6月1日	INSTITUT EUROPÉ EN D' HISTOIRE ET DES CULTURES DE L' ALIMENTATION	La taille des tables de restauration Manger en convivialite ou en solo : comparaison entre la France et le Japon Les Japonais n'invitent pas souvent les gens chez soi pour partager un moment convivial autour d'un repas. En revanche, ils n'hesitent pas de s'inviter dans des restaurants ou l'on peut trouver même des tables reservees pour des clients venant manger en solo. Or les Francais cherchent plutot la convivialite autour de la table familiale. Cette difference bien contrastee apparait-elle dans les dimensions des tables de restauration? Dans le cadre de mes recherches, je vous presente ma reflexion sur les tables de restauration et des comptoirs en France et au Japon suite aux observations effectuees sur leur taille et leurs caracteristiques.
14.国際会議 21th International Ethnological Food Research Conference in Heidelberg（ドイツ）	単	2016年9月1日	International Society for Ethnology and Folklore	講演演題：Table size and counters for eating out フランスおよび日本における飲食店の食事空間の特性を明らかにした。特にカウンター・テーブル・座敷など食事を行う座席配置と、そのテーブルサイズについての調査結果を発表した。
15.国際会議 Deuxieme Conference Internationale d' Histoire et des Cultures de l'	単	2016年5月26日	INSTITUT EUROPÉ EN D' HISTOIRE ET DES CULTURES DE L' ALIMENTATION	講演演題：Millefeuille and France フランス国内（パリ市およびパリ郊外300軒、その他フランス国内65軒）において365日365店におけるミルフィユの調査を通して、店舗の立地や経営者の特性およびミリフィユの形態の地域性を明らかにした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Alimentation （フランス）				
16.Gastronomical space according to the Japanese and French perspectives: social issues revealed through gastronomic space. Etudes de l' espace gastromique.(論説)	単	2014年8月1日	生活環境学研究 No.2 武庫川女子大学生活環境学部	料理を配すればそこに空間が生まれる。器という空間，その器が置かれるテーブルという空間，さらにテーブルや厨房が織りなす建築空間，その建築は都市の風景へと展開する。美食について空間・風景の視点から見れば，日本料理とフランス料理の個性が見えてくる。本論はフランス，アメリカ，ニッポンの美食を空間の視点から読み取りたい。その空間とは次の四層がある。まず①「器やお皿という空間」，次に②「食卓・テーブルという空間」，さらに③「家・店・ホテルなどの建築という空間」，最後に④「都市・近隣・環境・風景という空間」である。特に空間論からのアプローチはこれまで語られてこなかった新たな視点であり，これを美食空間学と名付けている。
17.参与観察法によるパリの移民と社会的混合に関する研究（審査付論文）	単	2014年8月1日	生活環境学研究 No.2 ，武庫川女子大学生活環境学部	都市に暮らす人々の出身地の多様性の実態を本論ではパリ市および郊外を例に明らかにしていきたい。移民が必ずしもかたまっているわけではない側面を示し，社会的混合が，生活空間（街角）や居住者用店舗の機能や景観に与える影響を考察したい。移民に関して参与観察法による生活空間レベルでの実態やパリ郊外（バンリュー）の研究は少ない。本論では二点の考察を行う。一つはパリ北部の五差路地点の街区における移民と店舗特性との関係を明らかにし，次にパリ市と郊外における特性と比較している。偶然にも調査時期中に前者の五差路の角に対面した立地する二つの店でそれぞれ働く男女が主人公となった映画 Le Passé がカンヌ国際映画祭主演女優賞を受賞した。三人の主人公はアルゼンチン出身者，イラン出身者，アルジェリア移民二世，がつとめた。舞台となったこの街区は，こうした特性を実際にもち，パリの社会を象徴しているとも考えられる。
18.食空間学からの都市計画 ： フランスと日本の比較計画論（招待論文）	単	2013年8月25日	都市計画 = City planning review 62(4), 65-68,日本都市計画学会	食空間とは,食卓と厨房との関係性から,店と地域との関係性,さらに,お弁当のような食が楽しまれる屋外空間や自然環境にいたるまで,憩い・出会い・社交といったコトが起きる空間である。それゆえに美食空間学とは,都市計画にとっても決して無縁とはいえない。フランスのパリでは,現在,小さなBENTO(弁当)ブームである。これは日本からの輸入である。弁当を持って,風景を楽しむという,日本では,風景を楽しむことと,食が強い関係をもってきた。すなわち食と風景とは一体のものであったのである。それがフランスで再認識されたのである。日本で発展した食空間の多様な展開を,今後はパブリック空間へと展開し,住区のコミュニティ・スペースや「街自慢」や「わが街意識」を感じるアイデンティティ・スペースとして育んでいくことを考えていきたい。
19.都市生活空間内における栽培実態に関する研究:兵庫県西宮市今津地区・鳴尾地区・尼崎市元浜地区を事例に（審査付論文）	共	2012年	都市計画論文集 47(3), 709-714,日本都市計画学会	（深瀬奏）わが国では、都市空間にも関らず、農的な要素が見られることも少なくない。本研究では、この農的要素のなかでも、家屋の軒先や庭において、鑑賞だけでなく収穫までも行われる野菜・果実栽培に着目した。都市計画において近年、都市農業など、都市における農的空間の可能性への検討がすすむが、その形態としては、農業としてだけではなく、小規模ではあるが、生活者が自主的に栽培するような内発的な土地利用など、多彩な農的利用の可能性が考えられる。そこで、本論ではまず生活空間内における内発的な野菜・果実の栽培実態を明らかにしたい。対象地域は、兵庫県西宮市内の今津地区および鳴尾地区、また尼崎市元浜地区の三地区とし,調査は、季節ごとの実態を考察するために、合計七期において調査を行った。
20.「中心市街地における夜間景観の特質に関する研究」（審査付論文）	共	2007年	土木計画学研究・論文集Vol.24.土木学会	（園田史子）中心市街地においては夜間人口の減少により、夜間においてこれまで形成された居住景観の変化が著しくなっている。特に商店街では、監視カメラなどの設置が増加し、これまでの居住景観を補完するようになっている。そこで、本研究では、現在の中心市街地における居住実態を明らかにするとともに、それがもたらす夜間景観の特質を示す。対象地域としては、徳島市中心市街地の10地区を比較考察した。
21.「対馬市厳原におけ	共	2007年	土木学会景観・デ	（樋口明彦,竹林知樹,石橋知也,伊東和彦,高尾忠志）本研究では長

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
る歴史的石塀の保全状況と市民意識についての研究」（審査付論文）			ザイン研究論文集Vol.2,土木学会	崎県対馬市厳原の都市計画道路横町線における街路再整備事業を対象とし，地方中小都市や地域における歴史的石塀の保全を目指した住民参加型街路再整備事業のプロセスを詳述するとともに，合意形成ならびに歴史的地域資源の保全を巡る課題について考察した．その結果，1）街路スケールに対する認知促進作業の重要性，2）関心喚起を通じた私有物に対する公共財としての評価，3）道路構造令の弾力的活用，4）時限付き交付金を使用した地域資源保全の難しさ，を街路再整備事業に係る地域資源保全の課題として指摘した．
22.「風土的景観の継承活動としての市民参加型石積みに関する研究」（審査付論文）	共	2005年	日本都市計画学会学術研究論文集，No，40	（庄野武朗）地域生活のなかで地場の材料を使用し、また地場の技術を用いて歴史的に形成されてきた風土的景観の継承は、今日、その材料、技術、人材など課題も少なくない。しかし、近年、各地でその継承活動の機運が高まっている。西日本各地で始まっている「石積み教室」もその一つである。これらは単なる景観保全の観点だけではなく、人々が暮らす生活空間の維持管理活動である。本研究では、石積み教室の立ち上げに必要な要件と石積み教室を維持・継承を促すための要件を明らかにすることを目的としている。調査方法は実際の石積み教室に参加し、その実態を記録した。研究対象地区は西日本の中で 8地区とした。結論として、石積み教室の立ち上げには、活動組織や指導者の存在、地場石材を確保できる地域であることが必要であり、継承を促すためには、石を入手する仕組みをつくることや制約を受けにくい土地の確保、他活動のと連携などが挙げられる。
23.「回想分析を用いた旧街道型細街路の街路イメージの比較」（審査付論文）	共	2005年	土木計画学研究・論文集Vol,22，土木学会	（亀谷一洋,山中英生）本論文では、旧道の再生問題について、回想分析を用いて土地利用状況の異なる旧街道型細街路における沿線住民が持っている街路イメージを分析した。その結果、歴史性を持つ旧街道型細街路沿線住民は、旧街道沿線という歴史性による街路イメージの共通性と土地利用状況や地域文化の違いによる独自性を持っていることがわかった。これより、旧街道型細街路の再生には、沿線住民が街路に対して持っている潜在的な街路イメージを想起させることにより、街路計画を作成する有効性を示した。
24.「中山間地域における石造社会基盤の景観保全システム　―徳島県・高開の石積みを事例に―」（審査付論文）	共	2005年	土木計画学研究・論文集Vol,22,土木学会	（庄野武朗）中山間地域における段々畑や棚田の集落景観は，地域の風土が反映された風土的景観として評価されるようになってきた。そのような集落環境は公的に資本整備されてきたものでなく，集落の人々が自ら築き，時には共同作業で作り上げた環境である。その社会基盤は，中山間地域の場合，それらは主に石積みによって施されていることが多い。今日，そのような環境の維持管理や保全が必要とされているが，中山間地域のその景観保全には，その材料や技術，また人材が必要である。そこで本研究は，中山間地域における集落維持管理システムの中でも，石造社会基盤の景観保全システムについて考察するものである。対象地域は徳島県・高開の石積みとした。
25.「石造壁構造の視点から見た石造構造物群と石垣集落の変遷と修復システム」（審査付論文）	単	2005年	土木計画学研究・論文集Vol,22,土木学会	ヨーロッパの石文化に対してわが国は木の文化と言われているが、石造建造物はわが国の空間形成において必要なものであった。しかしながら、景観論や街並み論においてその議論は少ない。また近年、土木分野では、土木遺産や近代化遺産の気運の高まっているが、その中で石垣の位置づけは定かではない。わが国の石垣は地域性が極めて繁栄されるものであり、今後の保全方策の検討が必要であろう。本研究は、まだわが国で保全方策が定まらない石垣の保全状態、および石垣を基礎石垣と壁石垣（壁を形成する石垣）の視点で考察したものである。研究対象地域は愛媛県愛南町（旧西海町）外泊地区とした。
26.「徳島･佐古川の形成過程と青石の石垣の特徴」（審査付論文）	共	2005年	土木史研究・論文集Vol,24，　土木学会	（庄野武朗）Development has advanced in Sakogawa under the Tokushima castle along with the formation of the castle town. Sako was a place where stone for the Tokushima castle stones was quarried, and Sakogawa was used for transportation of local stone, too. Ishigaki was built on the both riverside, and this landscape is different form both side. About the Ishigaki of the Awa Aoishi continuously formed with the formation process of Sakogawa. This

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				discourse is current consideration to the landscape preservation in the future. In conclusion, three ages exist in Sakogawa. They are ages of “Natural water road”, “Transportation for merchant” and “Drainage”. A lot of Ishigaki where it cost the left bank side were seen and it relates to the land use of the upper part.
27.「阪神間・六甲山麓における地場石材・本御影石の石垣の形成と展開」（審査付論文）	単	2005年	土木史研究・論文集Vol,24, 土木学会	Local stone is one of the important element of which stone structure composes the landscape in the foothill residential area. Mikageishi (granite), local stone in Mt. Rokko was used for the stone wall in the suburban developed from the end of the Meiji era to the beginning of the Showa era in the foothill of Mt. Rokko. This discourse clarifies that the realities of Mikageishi is the local industry and the use of local stone in the residential development in the foothill area had become full-scale since the end of the Meiji era. In conclusion, local stone received the peak period in modem ages, and excavated stone and local circulation stone were used for the stone wall in the residential area that had been developed in the age. After the world war II, the circulation was lost, and the cost became high in the stone wall with local stone.
28.「回想分析を用いた旧街道商店街の街路イメージの分析」（審査付論文）	共	2003年	土木計画学研究・論文集Vol.20,？？土木学会	（亀谷一洋,山中英生）近年の交通需要の増大に対応するため，地方の小規模市町村で中心街を迂回するバイパスが整備された結果，旧街道筋が裏道化し，町の中心商店街が衰退するという現象が相次いだ．本論文では，旧街道商店街の再生方法を考える第一のステップとして，歴史的経過を経験している旧街道商店街の沿線住民が前面街路に対して持っているイメージを把握するため，回想分析を用いて，沿線住民に個別インタビューを行い，結果を時間軸上にラダー構造で表現した．重た，少人数のフオーカスグループミテイングの結果も同様の手法で街路イメージの把握が可能であることがわかった．この手法から旧街道商店街街路再生コンセプトの提案を行った．
29.「土木および土木教育における市民共同型石積みの可能性」（審査付論文）	共	2003年	土木計画学研究・論文集Vol.20, 土木学会	（藤田愛，山中英生）土木分野において石積みが、地域性をもった景観形成のため、またはエコロジカルな視点から再評価されている。また市民の石積み体験などのイベントが各地で行われるようになり、市民の関心も高まっている。しかし、その技術をもつ人材は不足しており、また大学においても教育が行われていない。そこで本稿では、市民や学生に向けての石積み技術育成の可能性を検討するため、学生向けの石積み実習を合計4回45.5時間、試験的に行い、そこから今後の育成プログラムづくりの可能性を明らかにした。実習は、徳島県美郷村の段々畑で行い、大正時代以前に積まれた石積みの修復作業である。
30.City Culture That Promotes Stone Recycling（審査付論文）	単	2002年	Proceeding of the fifth international ecocity conference, The Fifth International Ecocity Conference, Shenzhen	石のリサイクルを扱った研究であり、地場石垣をもつ宅地の実態およびその変容傾向、さらに建設工事等によって新たに出土する地場石材の活用の実態を調査・分析している。山麓斜面地住宅地の開発や更新における風土的景観特性の持続の必要性について論じ、新たな風土的景観を形成するための諸方策について論じている。
31.Design of Residential landscape in Suburban Residential Development at the foot of a	単	2001年	International Symposium on Sustainable Development of Mountainous Human Settlements and	これまでに日本の山麓に形成されてきた住宅地の環境と景観の実態を明らかにするために、明治末期以降現在までの六甲山麓部における開発を時期別に、それぞれの環境と景観の実態を調査・分析している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
mountain and Preservation of the Stone wall（審査付論文）「在城郊山脚下景区内居住区的景観設計」			Eco-Environments, Kunming　山地人居与生態環境可持続発展国際学術研究論文集，中国建築工業出版社	
32.「花崗岩が織り成す対比鮮やかな都市風景」（審査付論文）	単	1997年1月	建築雑誌Vol.112, 日本建築学会No. 1413	六甲山麓の住宅地に形成されてきた地場石材・御影石が織り成す景観について、概要的に紹介した論考である。
33.「戦前期郊外住宅地開発における山林地の住宅地設計の特徴に関する研究　―阪神間・六甲山麓部における住宅地を事例に―」（審査付論文）	共	1997年	日本都市計画学会学術研究論文集, No, 32	共著者：鳴海 邦碩　阪神間において代表的な別荘地開発となった松風山荘および六麓荘を事例に、既存の山林の松林を活用し、また開発時に地場から産出された花崗岩を用いて石垣などの住宅地の意匠を飾っていったことをまとめた。
34.「地場石材による石垣景観の形成とその特性維持に関する基礎的考察　―阪神間・六甲山麓部における住宅地を事例に―」（審査付論文）	共	1996年	日本都市計画学会学術研究論文集, No, 31	（共著者：鳴海 邦碩）山麓斜面地住宅地において地場石材が景観に風土性をもたらしているという視点に立ち、これによって構成された石垣景観の実態を明らかにする目的で、六甲山麓部の芦屋市山麓市街地全域および初期に開発された神戸、芦屋、西宮、宝塚市内の7つの住宅地を対象として、地場石垣をもつ宅地の実態およびその変容傾向、さらに建設工事等によって新たに出土する地場石材の活用の実態を調査・分析している。
35.「名古屋東部丘陵地住宅地開発の計画理念に関する研究　―１９２０年代後半の計画従事者の論考に基づいて―」（審査付論文）	共	1995年	日本都市計画学会学術研究論文集, No, 30	（共著者：鳴海 那碩）明治末期以降、戦前までに行われた初期の斜面地住宅地開発における計画手法を明らかにするために、名古屋東部丘陵地の住宅地開発を事例として、計画内容や計画理念について論じている。
36.「初期郊外住宅地における共用施設とコミュニティとの関係性に関する研究」（審査付論文）	単	1994年	地域施設計画研究 No, 12, 日本建築学会	田園調布（太田区）・洗足（品川区）・桜新町（世田谷区）・大和郷（文京区）、室町（池田市）、豊中（豊中市）の６つの初期郊外住宅地における住民らが内発的に整備していった倶楽部、購買組合、幼稚園などの生活関連施設の設立およびその展開を明らかにした。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.日本調理科学会における招待講演	単	2012年9月29日・大学コンソーシアム大阪	日本調理科学会	講演演題「思い出を詰めたお弁当箱、そこから広がるケーキの世界」
2.臨海部の都市計画的意味を考える　土地利用マネジメントの課題とその魅力　招待講演	単	2008年12月4日	日本都市計画学会	講演演題「紙テープで神戸を世界一の港へ　～観光立国の港づくり～」
3.　「感性研究フォーラム・食と感性」パネルディスカッション	単	2006年5月22日	繊維学会	シンポジウムにパネリストとして出演
２．学会発表				
1.居酒屋店における食事空間に関する研究　―神戸市および高知市を事例に―	単	2022年7月	地域施設計画研究シンポジウム No,40　日本建築学会	わが国では近年、社会的な交流において自宅が利用されることよりも、むしろ飲食店が選択される場合が多いと考えられる。飲食店がそれら社交の受け皿となっていることで、家庭的もしくは伝統的な住様式の趣向が反映されていることも考えられる。本論ではカウンター・テーブル・座敷など食事を行う座席配置を食事空間とし、その実態を調査することを目的とし、神戸市および高知市の中心市街

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
2.多文化共生に向けた地域日本語教室の特徴に関する研究	単	2021年7月	地域施設計画研究シンポジウム No,39　日本建築学会	地を対象にして分析を行ったものである。 各市町村で行政や国際交流協会、NPO、市民グループによって大人向けや子ども向けの「地域日本語教室」が地域施設で開催されている。本研究は、兵庫県内の地域日本語教室（大人向け115・子ども向け66）を対象に、主催側の特性および活動の内容、活動場所となる施設を明らかにするとともに、計画の視点をもった建築領域における居場所の要素「主体性」、「多次元化」、「一緒に学ぶ（対等な立場）」に着目して、アイデンティティの発信、さらに地域日本語教室の課題となっている居場所づくりと対等な関係づくりについて、それらの課題に取り組む教室の活動を考察している。
3.国際会議　Ninth International Conference on Food Studies, National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism,Taiwan（台湾）	単	2019年10月24日	Food Studies Research Network	講演演題：Millefeuille and Napoleon as an international favorite, An internationally recognized cakes 国際的に認知されている菓子について、各地域における名称や形態についての特性を調査した結果を発表したものである。特にミルフィユ、ナポレオン、シュバルツベルダーなど、フランス、アメリカ、中国における考察を行った。
4.国際会議　Eighth International Conference on Food Studies, University of British Columbia, Vancouver（カナダ）	単	2018年10月26日	Food Studies Research Network	講演演題：Table size and counters for eating out フランスおよび日本における飲食店の食事空間の特性を明らかにした。特にカウンター・テーブル・座敷など食事を行う座席配置と、そのテーブルサイズについての調査結果を発表した。
5.国際会議 Troisieme Conference Internationaled' Histoire et des Cultures de l' Alimentation（フランス）Tables for eating out, A Table size in France and Japan	単	2017年6月1日	INSTITUT EUROPÉEN D' HISTOIRE ET DES CULTURES DE L' ALIMENTATION	La taille des tables de restauration Manger en convivialite ou en solo : comparaison entre la France et le Japon Les Japonais n'invitent pas souvent les gens chez soi pour partager un moment convivial autour d'un repas. En revanche, ils n'hesitent pas de s'inviter dans des restaurants ou l'on peut trouver même des tables reservees pour des clients venant manger en solo. Or les Francais cherchent plutot la convivialite autour de la table familiale. Cette difference bien contrastee apparait-elle dans les dimensions des tables de restauration? Dans le cadre de mes recherches, je vous presente ma reflexion sur les tables de restauration et des comptoirs en France et au Japon suite aux observations effectuees sur leur taille et leurs caracteristiques.
6.国際会議21th International Ethnological Food Research Conference in Heidelberg（ドイツ）	単	2016年9月1日	International Society for Ethnology and Folklore	講演演題：Millefeuille and Napoleon. The last place of food production in neighbourhoods フランスのミルフィユおよびアメリカのナポレオンという製菓を通して、近隣社会と製菓製造との関係性について発表した。そして地域社会における製菓店の果たす役割について言及した。
7.国際会議Deuxieme Conference Internationale d' Histoire et des Cultures de l' Alimentation　（フランス）	単	2016年5月26日	INSTITUT EUROPÉEN D' HISTOIRE ET DES CULTURES DE L' ALIMENTATION	講演演題：Millefeuille and France フランス国内（パリ市およびパリ郊外300軒、その他フランス国内65軒）において365日365店におけるミルフィユの調査を通して、店舗の立地や経営者の特性およびミリフィユの形態の地域性を明らかにした。
8.フランスの哲学祭（ Citephilo 2013）におけるオープニン	単	2013年11月7日	Citephilo	講演演題：La cuisine japonaise, son identite et ses interferences 日本料理についてその空間的特性に関する考察を行った。食事を行

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
グ基調講演（リール市宮殿美術館）				う建築的空間から、盛り付けなどの空間まで、フランス料理との比較からその特性を明らかにした。
9.深瀬奏、三宅正弘：都市生活空間における野菜づくりに関する研究	共	2011年7月20日	日本建築学会　学術講演梗概集．F-1，都市計画，建築経済・住宅問題	わが国では、都市空間にも関らず、農的な要素が見られることも少なくない。本研究では、この農的要素のなかでも、家屋の軒先や庭において、鑑賞だけでなく収穫までも行われる野菜・果実栽培に着目した。都市計画において近年、都市農業など、都市における農的空間の可能性への検討がすすむが、その形態としては、農業としてだけではなく、小規模ではあるが、生活者が自主的に栽培するような内発的な土地利用など、多彩な農的利用の可能性が考えられる。そこで、本論ではまず生活空間内における内発的な野菜・果実の栽培実態を明らかにしたい。対象地域は、兵庫県西宮市内の今津地区および鳴尾地区、また尼崎市元浜地区の三地区とし,調査は、季節ごとの実態を考察するために、合計七期において調査を行った。
10.尾崎梨紗、三宅正弘：明治末から大正期における郊外住宅地の養蜂環境に関する研究 ー 岩野泡鳴の『池田日記』・『目黒日記』・『巣鴨日記』を事例にー	共	2011年7月20日	日本建築学会　学術講演梗概集．F-1，都市計画，建築経済・住宅問題	明治末から大正期にかけて大阪・東京郊外の郊外住宅地においては、その居住者たちが郊外の自然環境をいかした趣味を楽しんだ。本論はそのなかの一つの趣味である養蜂について、それが成立した環境を考察した。岩野泡鳴によって書かれた『池田日記』・『目黒日記』・『巣鴨日記』を事例にして、その環境を明らかにした。
11.片岡由香、三宅正弘：戦後郊外住宅地居住者の風土的景観への認識 ： 奈良・学園前地区を事例として	共	2007年7月31日	日本建築学会　学術講演梗概集．F-1，都市計画，建築経済・住宅問題	風土的景観は、その地域の風土が反映されて地域性が形成された景観であると考えられるが、実際にその地域の人々が必ずしも自分達の地域の風土を理解し、風土的景観を認識しているわけではないと思われる。本研究では、風土的景観の実態と、それについての地域住民の認識について明らかにした。
12.倉田瑠里、三宅正弘：戸建住宅地における「垣根越し」に関する研究(居住地の景観	共	2007年7月31日	日本建築学会　学術講演梗概集．F-1，都市計画，建築経済・住宅問題	池田市室町住宅地、神戸市岡本住宅地、芦屋市岩園町住宅地、奈良市鳥見町住宅地を事例に、不透過型、透過型、オープン型など宅地面積の違いによる敷際の利用変化などの考察を行った。
13.吉岡寛子、三宅正弘：鉄道支線における沿線景観に関する研究 ー兵庫県阪神間における三線を事例にー	共	2007年7月31日	日本建築学会　学術講演梗概集．F-1，都市計画，建築経済・住宅問題	阪神間支線の阪急電鉄甲陽線沿線、阪神電鉄武庫川線、神戸新交通六甲アイランド線を事例に、支線沿線の景観的特徴について明らかにしている。
14.本田啓樹、三宅正弘：農山村漁村の生活空間における舞台の役割に関する研究 :ー昭和前期における旧由岐町の素人芝居を事例にー	共	2007年5月26日	日本建築学会四国支部研究報告集	徳島県旧由岐町において明治から昭和３０年代まで行われていた素人芝居を事例に、その舞台の建築的特徴および農山村漁村の生活空間における舞台の役割に関する研究した報告である。
15.倉田瑠里、三宅正弘：大阪郊外における戸建住宅地景観の変容に関する研究	共	2007年5月22日	日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	大阪郊外における戸建住宅地景観の変容について、池田市室町住宅地、神戸市岡本住宅地、芦屋市岩園町住宅地、奈良市鳥見町住宅地を事例に塀や生垣、垣根、石垣、ガレージなどを含めた敷際空間に着目して考察を行った。
16.片岡由香、三宅正弘：奈良・学園前住宅地における風土的景観としての石垣・生垣に対する居住者の認識	共	2007年5月22日	日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	風土的景観は、その地域の風土が反映されて地域性が形成された景観であると考えられるが、実際にその地域の人々が必ずしも自分達の地域の風土を理解し、風土的景観を認識しているわけではないと思われる。本研究では、風土的景観の実態と、それについての地域住民の認識について明らかにした。
17.吉岡寛子、三宅正弘：阪神間支線沿線における地域景観形成に関する研究	共	2007年5月22日	日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系	阪神間の鉄道支線沿線における商業立地や住宅形態をもとにした景観的特徴を明らかにする報告である。阪急電鉄甲陽線沿線、阪神電鉄武庫川線、神戸新交通六甲アイランド線を事例に、支線沿線の景観的特徴について明らかにしている。
18.片岡由香・三宅正弘	共	2006年12月	土木学会　景観デ	現在も歴史的な面影の残る徳島県大里地区と、関西地方の郊外住宅

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
:風土的景観への居住者の認識に関する比較地域研究　～徳島県大里地区と奈良県学園前地区～」		9日	ザイン研究講演集 No.2	地と位置づけられ、近代以降に開発された生駒山麓斜面住宅地である奈良県学園前地区の２つの風土的景観が形成されていると考えられる地域を対象にする。また、本研究では学園前地区の風土的景観として‘生駒石の石積み’、大里地区の風土的景観として‘タケの生垣’を挙げることとし、風土的景観の実態を調査するとともに、地域の人々がどのように風土的景観を認識しているのか明らかにしている。
19.三宅 正弘、笹田明伸：街のアイデンティティプレイスとしてのバス停の活用	共	2004年11月	土木計画学研究・講演集Vol.29	鳴門市において行った社会実験であり、バス停に旧式のバスを設置し、その車内で地元の歴史的な写真などの展示会を行うことで、利用者にバス停を街のアイデンティティプレイスとして認識させることを試み、バス停が公共性の高い空間になるという可能性を示した。
20.三宅 正弘：愛媛県外泊の石垣集落の変遷と修復システム	単	2004年11月	土木計画学研究・講演集Vol.30	ヨーロッパの石文化に対してわが国は木の文化と言われているが、石造建造物はわが国の空間形成において必要なものであった。しかしながら、景観論や街並み論においてその議論は少ない。また近年、土木分野では、土木遺産や近代化遺産の気運の高まっているが、その中で石垣の位置づけは定かではない。わが国の石垣は地域性が極めて繁栄されるものであり、今後の保全方策の検討が必要であろう。本研究は、まだわが国で保全方策が定まらない石垣の保全状態、および石垣を基礎石垣と壁石垣（壁を形成する石垣）の視点で考察したものである。研究対象地域は愛媛県愛南町（旧西海町）外泊地区とした。
21.庄野武朗、三宅 正弘：石積み修復システムと石積職人・高開文雄	共	2004年9月	土木学会全国大会技術研究発表会講演概要集	徳島県中山間地域の美郷村高開地区において、高開文雄氏によって進められている段々畑の石積み修復を事例に、その修復の現状とともに、多様な参加者による継続的活動のシステムを明らかにした。
22.三宅 正弘、庄野武朗：徳島県高開の石積みと高開文雄　市民型石積み修復システム	共	2004年6月	土木計画学研究・講演集、Vol.29	中山間地域における段々畑や棚田の集落景観は，地域の風土が反映された風土的景観として評価されるようになってきた。そのような集落環境は公的に資本整備されてきたものでなく，集落の人々が自ら築き，時には共同作業で作り上げた環境である。その社会基盤は，中山間地域の場合，それらは主に石積みによって施されていることが多い。今日，そのような環境の維持管理や保全が必要とされているが，中山間地域のその景観保全には，その材料や技術，また人材が必要である。そこで本研究は，中山間地域における集落維持管理システムの中でも，石造社会基盤の景観保全システムについて考察するものである。対象地域は徳島県・高開の石積みとした。
23.林健　三宅正弘 :地域アイデンティティにおける居住地型店舗の役割	共	2004年6月	土木計画学研究・講演集、Vol.29	半径100m～250mの徒歩圏の居住地において、地域居住者がその住区内に立地する商業店舗に対する意識を考察した。店舗を単なる利便性だけでなく、地域社会におけるアイデンティティやコミュニティについての役割を分析した。徳島市富田町、津田町、城南町の三地区を対象とした。
24.三宅 正弘、庄野武朗：徳島･佐古川における青石の石垣の形成と展開	共	2004年	土木史研究・講演集　Vol,24,土木学会	徳島城下の佐古川（吉野川水系）は、城下町形成に伴い市街化するが、同時に徳島城の石垣の採石の場となった。この佐古川の開発の変遷とともに、地場石材・阿波青石の石垣の実態をまとめた。
25.三宅 正弘：神戸・六甲山麓における地場石材・本御影石の石垣の形成と展開	単	2004年	土木史研究・講演集　Vol,23,　土木学会	六甲山麓は、御影石の採石が行われてきた土地であり、建設工事等によって出土する地場石材と相まって風土的景観特性が形成されてきた。本論は、地場石材・本御影石と地域の石垣との関係性を明らかにした。
26.三宅 正弘、庄野武朗：参加型土木工事と石積み教室	共	2003年11月	土木計画学研究・講演集、Vol.28	地域生活のなかで地場の材料を使用し、また地場の技術を用いて歴史的に形成されてきた風土的景観の継承は、今日、その材料、技術、人材など課題も少なくない。しかし、近年、各地でその継承活動の機運が高まっている。西日本各地で始まっている「石積み教室」もその一つである。これらは単なる景観保全の観点だけではなく、人々が暮らす生活空間の維持管理活動である。本研究では、石積み教室の立ち上げに必要な要件と石積み教室を維持・継承を促すための要件を明らかにすることを目的としている。調査方法は実際の石積み教室に参加し、その実態を記録した。研究対象地区は西日本の中で 8地区とした。結論として、石積み教室の立ち上げには、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				活動組織や指導者の存在、地場石材を確保できる地域であることが必要であり、継承を促すためには、石を入手する仕組みをつくることや制約を受けにくい土地の確保、他活動のと連携などが挙げられる。
27.三宅 正弘 ： 石のリサイクル活動を通じた地域学習の実践	単	2003年6月	土木計画学研究・講演集、Vol.27	地域で産出される地場石材について、そのリサイクル活動を通じて、地域の子供たちへ向けた地域学習の可能性を論じた報告である。
28.三浦 和夫，三宅 正弘 ： 大規模野菜景観に着目した地域づくりに関する研究	共	2002年11月	土木計画学研究・講演集Vol.26	大規模な野菜畑の景観に着目し、観光資源、地域資源としての魅力を有しているかという可能性を論じたものである。またスーパーマーケットの野菜売り場における産地調査を行うことで、大規模産地の畑との関係性を明らかにしている。
29.三宅 正弘，藤田 愛 ： 土木および土木教育における石積みの役割	共	2002年11月	土木計画学研究・講演集、Vol.26	土木分野において石積みが、地域性をもった景観形成のため、またはエコロジカルな視点から再評価されている。また市民の石積み体験などのイベントが各地で行われるようになり、市民の関心も高まっている。しかし、その技術をもつ人材は不足しており、また大学においても教育が行われていない。そこで本稿では、市民や学生に向けての石積み技術育成の可能性を検討するため、学生向けの石積み実習を合計4回45.5時間、試験的に行い、そこから今後の育成プログラムづくりの可能性を明らかにした。実習は、徳島県美郷村の段々畑で行い、大正時代以前に積まれた石積みの修復作業である。
30.山中英生、亀谷 一洋，三宅 正弘 ： 回想分析を用いた旧街道商店街の街路イメージの分析	共	2002年11月	土木計画学研究・講演集、Vol.26	旧街道商店街の再生方法を考える第一のステップとして，歴史的経過を経験している旧街道商店街の沿線住民が前面街路に対して持っているイメージを把握するため，回想分析を用いて，沿線住民に個別インタビューを行った。
31.山中英生、三宅 正弘，亀谷 一洋，前田 圭美 ： 回想分析による旧街道商店街の街路イメージ゜の把握	共	2002年5月	土木学会四国支部技術研究発表会講演概要集、Vol.8，311-312頁	近年の交通需要の増大に対応するため，地方の小規模市町村で中心街を迂回するバイパスが整備された結果，旧街道筋が裏道化し，町の中心商店街が衰退するという現象が相次いだ．本論文では，旧街道商店街の再生方法を考える第一のステップとして，歴史的経過を経験している旧街道商店街の沿線住民が前面街路に対して持っているイメージを把握するため，回想分析を用いて，沿線住民に個別インタビューを行い，結果を時間軸上にラダー構造で表現した．重た，少人数のフオーカスグループミテイングの結果も同様の手法で街路イメージの把握が可能であることがわかった．この手法から旧街道商店街街路再生コンセプトの提案を行った．
32.三宅 正弘 ： これからの街の形，--- ケーキ屋さんと街のアイデンティティ ---	単	2001年	ファッション環境学会誌，Vol.11，No.1，30-31頁	郊外住宅地およびニュータウンにおいてケーキ店などは、そこに暮らす人々にとっての街のアイデンティティに少なからず関係していくのではないかという可能性を論じた報告である。
33.三宅 正弘 ： 郊外および住宅地におけるケーキ店の形成	単	2000年	近畿都市学会，日本都市学会	兵庫県芦屋市における昭和３０年代以降のケーキ店の立地について明らかにしている。中心市街地の商店街に隣接する立地から、昭和４４年以降は、阪神および国鉄の駅前に立地し、それ以降は土地区画整理などによる沿道への展開が見られた。
34.三宅 正弘 ： 阪神間における美術館の形成に関する研究	単	1999年1月	日本建築学会近畿支部研究報告集，No.39，769-772頁	阪神間では昭和初期から現代まで多様な私設美術館が形成されており、特に茶の湯に関連した蒐集家たちによるコレクションが多く見られる。本論は私立美術館について、その形成の実態を明らかにしている。
35.三宅 正弘 ： 山麓斜面住宅地における住宅地開発の変遷とその環境の特徴	単	1998年1月	日本建築学会近畿支部研究報告集，No.38，593-596頁	明治末期以降現在までの六甲山麓部における住宅地開発の変遷とその環境の特徴を明らかにするために、開発時期別に環境の実態を調査・分析している。
36.三宅 正弘 ： 山麓斜面住宅地における開発タイプ別の環境，--- 阪神間六甲山麓部における住宅地を事例に ---	単	1998年	日本建築学会学術講演概要集 ，No.F-1，723-724頁	これまでに六甲山麓に形成されてきた住宅地の環境と景観の実態を明らかにするために、明治末期以降現在までの六甲山麓部における開発を時期別に、それぞれの環境と景観の実態を調査・分析している。
37.三宅 正弘 ： 御影石	単	1997年	日本建築学会学術	近代以降の郊外住宅地開発期において地場産業であった御影石の採

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
と郊外住宅地開発，--- 阪神間・六甲山麓住宅地の地場石材による石垣景観に関する研究 ---			講演梗概集	石の実態を文献資料をもとに明らかにした。
38.三宅 正弘 ： 地場石材・御影石と山麓住宅地開発，--- 阪神間・六甲山麓住宅地の地場石材による石垣景観に関する研究 その2 ---	単	1997年	日本建築学会近畿支部論文報告集37	近代以降の郊外住宅地開発期において地場産業であった御影石の採石の実態とともに、住宅地開発における地場石材 ・御影石の利用手法を明らかにした。
39.三宅 正弘 ： 芦屋市山麓住宅地における地場の石垣景観	単	1996年9月	日本建築学会学術講演梗概集	山麓斜面地住宅地において地場石材が景観に風土性をもたらしているという視点に立ち、これによって構成された芦屋市山麓部の石垣景観の実態を明らかにしている。
40.三宅 正弘 ： 芦屋市山麓住宅地における「石垣」景観	単	1996年6月	日本建築学会近畿支部研究報告集36	六甲山麓部の山麓市街地の住宅地を対象として、地場石垣をもつ宅地の実態を明らかにした。
41.三宅 正弘，三村 浩史，リムボン，紅谷 昇平 ： 都心業務系複能地区における昼間人口・事業所のまちづくり参画に関する研究，--- その2・まちづくり活動・組織別考察 ---	共	1995年	日本建築学会学術講演梗概集	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。千代田区の神田、船場では伏見町、平野町、道修町などの町内会長へのヒアリングをもとにまとめている。本稿はまちづくり活動・組織別考察を行った。
42.三宅 正弘，紅谷 昇平，三村 浩史，リムボン: 都心業務系複能地区における昼間人口・事業所のまちづくり参画に関する研究，--- その1・町丁目別のまちつくり参画実態 ---	共	1995年	日本建築学会学術講演梗概集	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。千代田区の神田、船場では伏見町、平野町、道修町などの町内会長へのヒアリングをもとにまとめている。本稿は町丁目別のまちつくり参画実態を明らかにした。
43.三宅 正弘，三村 浩史，東樋口 護 ： 都心業務系複能地区における昼間人口・事業所のまちづくり参画に関する研究	共	1995年	日本建築学会近畿支部研究報告集35	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。この研究は京都を出発点としており、そのような役割を果たす企業を町衆企業としている。神田祭りの御神輿の担ぎ手として、また祇園祭の山鉾巡行に参加するなど、参与型の研究を行った成果である。私はこの著作では東京都千代田区とともに大阪市・船場地区について執筆した。千代田区の神田、船場では伏見町、平野町、道修町などの町内会長へのヒアリングをもとにまとめている。
44.三宅 正弘 ： 大正・昭和初期の名古屋東部丘陵地住宅地開発における曲線道路の導入について	単	1995年	日本建築学会東海支部論文報告集	明治末期以降、戦前までに行われた初期の斜面地住宅地開発における計画手法を明らかにするために、名古屋東部丘陵地の住宅地開発を事例として、計画内容や計画理念について論じている。
45.三宅 正弘 ： 初期郊外住宅地のコミュニティ形成における共用施設整備のインパクト	単	1994年	日本建築学会近畿支部研究報告集34	初期郊外住宅地における住民らが内発的に整備していった倶楽部、購買組合、幼稚園などの生活関連施設の設立およびその展開を明らかにした。
46.三宅 正弘，三村 浩史，リムボン ： 都心商業地域のまちづくり活動における町衆企業の役割	共	1994年	日本建築学会学術講演梗概集	都心業務エリアにおいて企業がどのようにコミュニティやまちづくりに関わっているのかを明らかにした。この研究は京都を出発点としており、そのような役割を果たす企業を町衆企業としている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
47.三宅 正弘，高橋 昭子，丸茂 弘幸 ：小林一三による郊外住宅地経営の特徴について	共	1993年	日本建築学会学術講演梗概集	小林一三が関わった箕面有馬電気軌道による初期の郊外住宅地のなかで、特に倶楽部、購買組合、幼稚園といった生活関連施設に関する形成について明らかにした。
48.三宅 正弘，丸茂 弘幸，高橋 昭子 ：成立期前夜の郊外住宅地像，--- 同時代人から見た成立期の郊外住宅地像に関する研究その1 ---	共	1993年	日本建築学会近畿支部研究報告集33	わが国でまだ郊外住宅地が形成されていなかった明治末に、同時代の識者らがいかなる郊外住宅地像をもっていたのかを明らかにしたものである。田園都市論や鉄道会社の発行した刊行物などから考察したものである。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.ゼミの活動を一年にわたり新聞連載「毎日新聞」（連載名：「こよみと暮らし 三宅ゼミの歳時記」）により学生のモチベーションに繋げる （連載期間：2008年4月から2009年3月）第１回から第22回まで22回にわたって連載	単	2008年4月～2009年3月	毎日新聞	ゼミ生たちと共に2006年から始めた鳴尾苺の復活プロジェクトや、地元の祭りへの参加など、一年を通して地域の伝統行事やお祭り、地域活動などに、その企画から参加しているほか、まちづくりのための研究調査と活動を一年を通して紹介した。例えば有名料亭の元総料理長から学んでいる節句料理の勉強会や、神戸港を出航する外国客船へ向けてお別れの紙テープを投げる活動、ゼミ生が研究している年中行事の研究成果なども紹介し、ゼミの一つ一つの活動の社会的な位置づけを学生に伝えると同時に、ひとつの教育実践を社会に提示した。
2.徳島新聞連載「見えた街の魅力」第１回から第40回	単	2005年3月12日～2006	徳島新聞	徳島の地域資源の発掘とその発信のために２年間にわたり連載した。 （第１回から第40回）
3.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」⑥	単	1999年3月25日	日本経済新聞	「もてなしの空間　引き継ぐ」
4.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」⑤	単	1999年3月18日	日本経済新聞	「ケーキの店集まり個性表現」
5.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」④	単	1999年3月11日	日本経済新聞	「景観自体が大きな美術館」
6.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」	単	1999年3月4日	日本経済新聞	「白砂と松、街の色を演出」
7.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」②	単	1999年2月25日	日本経済新聞	「垣の街並み、開発時の記憶」
8.日本経済新聞・連載「阪神間の住宅街から」①	単	1999年2月18日	日本経済新聞	「石との出合いが生んだ美」
６．研究費の取得状況				
1.科研費　基盤研究(C)　代表：森田雅子「聖地研究　甲子園一聖地の生成と象徴性再生産プロセスに対する住民評価の研究」		2019年～2022年	小区分80020:観光学関連	従来聖地研究は、聖地の中核となるモニュメントの表象を象徴的意味の多重奏とみなし、巡礼者目線で多角的に分析する。巡礼者以外の地域住民の物語や記憶、生活文化の調査は手薄になりがちだ。本研究では現地調査・資料調査・ヒアリング調査を行い、各地の状況とも比較し、兵庫県西宮市の野球聖地甲子園の形成・継承の要件と可能性を住民の目線で評価する。
2.科研費　萌芽研究		2005年～	交通工学・国土計	アメリカで開発された合意形成のための交渉学を基礎とするコンセ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
代表：山中英生「我が国の社会環境に適したコンセンサス・ビルディング手法の開発と公共事業への適用」		2006年	画（分野）	ンサス・ビルディング・プログラムを研究対象として,実際の現場で使用される合意形成プロセス、手法、規約、分析用シートについて、我が国への導入用の修正などを行うとともに,我が国での合意形成プロセスの実態を分析し、コンセンサス・ビルディングの理論の視点から評価を行うことを目的としている.
3.科研費　基盤研究(B)　代表：山中英生「路面舗装特性の工夫による自転車歩行者道路の改善方策」		2004年～2006年	交通工学・国土計画（分野）	自転車歩行者道路における、自転車、歩行者、車いすの路面振動選好の違いに着目して、空間利用ルール遵守向上の効果をもつ舗装を開発することを目的とした。具体的には3カ年の研究によって以下の点を明らかにした。
4.科研費　基盤研究(B)　代表：山中英生「混合交通のサービスレベル評価方法と多様な自転車利用空間の設計基準」		2000年～2002年	交通工学・国土計画（分野）	交通工学・国土計画本研究では混合交通状況を考慮した自転車の利用空間整備計画・設計の際に必要となる設計基準の構築を目的としている。そのため、昨年度は以下の混合交通のサービスレベル評価方法の開発を行い,本年度は以下の手順で自転車・歩行者混在空間における通行区分施工の効果分析を行った。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	異文化間教育学会 土木学会 日本建築学会 日本都市計画学会